週刊 YEAR BOOK

1931 昭和6年 日録20世紀

12|30
平成9年12月30日発行
(毎週1回発行)第1巻第43号
¥560
講談社

「カジノ・フォーリー」
「ムーラン・ルージュ」の輝き

子どもが育てた「のらくろ」
「黄金バット」人気!

"摩天楼"
エンパイア・ステート・ビル完成!

「満州事変」勃発!

ナンセンス、お色気、ジャズ、風刺……
学生・インテリ層も熱中した軽演劇の殿堂

「カジノ・フォーリー」「ムーラン・ルージュ」の輝き

橋本与志夫提供

▼「カジノ・フォーリー」は、"馬鹿さわぎする舞踏場" の意。エノケン、中村是好らの珍演技に、梅園龍子、花島喜世子らのレビューのエロチシズムが加わって、客足を集めた。

「日本地理風俗大系2」／誠文堂新光社提供

▲震災後バラック建築で営業していた浅草六区の興行街も、昭和6年までには再建され、レビュー、映画など連日満員の活況を呈した。

◀「カジノ・フォーリー」解散後新たに結成された、浅草・玉木座専属劇団「プペ・ダンサント」のスターたち。

橋本与志夫提供

◀「カジノ・フォーリー」の公演プログラム。

台東区立下町風俗資料館提供

恐慌の嵐が押し寄せ、軍靴の響きが近づく中、東京・浅草ではエノケン率いるレビューの舞台が一大人気を博していた。「エロ・グロ・ナンセンス」と罵られながらも、権威を笑いのめす浅草の軽演劇は、新宿「ムーラン・ルージュ」とともに、インテリや学生層にまでも幅広いファンを獲得していったのである。

「ズロース事件」の噂から押すな押すなの大盛況

二〇〇の客席に三〇〇人もの観客が押しかけた東京・浅草の玉木座二階特等席で、東宝の創業者で宝塚少女歌劇の育ての親でもある小林一三（五八）が腹を抱え、涙を流して笑いころげていた。隣席には小林を案内してきた古川ロッパ（二七）が座っていた。「思い切ったことをするもんだねぇ、浅草っていうところは」と小林はロッパにささやいた。

舞台に立っていたのは、二年前の「カジノ・フォーリー」旗揚げ以来、一躍「喜劇王」とうたわれる人気スターにのし上がった「エノケン」こと榎本健一（二六）。出し物は大ヒットしたフランス映画「怪漢ジゴマ」をパロディ化した「矮漢ジゴマ」、後に東宝の重役作家となる菊田一夫（二二）の作だった（一説には詩人サトウハチローの作ともいう）。

エノケン扮するジゴマが彼を追う探偵とトイレで鉢合わせするが、探偵は小便が止まらない。その間に逃げ出したジゴマは、入り口で若い女性とすれ違い、とっさにハンドバッグを奪っている。ようやく用をたし終えた探偵が「お嬢さん、何か盗られたものは？」「ハンドバッグと……」「それから？」「……アレも」「畜生！　ジゴマの奴め、アレまで盗んでいきやがった！」

昭和六年正月のことである。そこには軽妙なギャグ、パロディ、そして"エノケン調"で歌われるジャズ、エロチックな踊り、ナンセンス、時事風刺までがもりこまれ、スピーディな展開と目新しさに観客は暗い世相をしばし忘れて笑い興じた。

舞台が狭いだけに、背景画を利用したナンセンスが次々に飛び出した。画の帽子かけに帽子をかけると落ちてしまう、

◎表紙　「エノケン」こと榎本健一は、昭和4年「カジノ・フォーリー」出演を機に、軽演劇の旗手として大活躍、「喜劇王」と呼ばれた。　毎日新聞社

浅草六区盛衰記

かつての浅草は、日本一にぎわう大衆娯楽のメッカであった。

明治6年、公園指定地とされた浅草は、浅草寺を一区、仲見世を二区とする七区画に分けられ、六区に娯楽興行施設が集まるようになっていった。江戸時代から猿若町に中村座、市村座など三つの芝居小屋がおかれた浅草は、明治末期に日本初の活動小屋が出現、続いて大正時代の浅草オペラ時代には、藤原義江、田谷力三などが大活躍する。エノケンはオペラ全盛時代にはコーラスボーイだった。

日本屈指の歓楽街となった浅草は、関東大震災で壊滅的な被害をこうむり、それとともにオペラブームも衰退、代わって台頭したのが大衆演劇だった。そのほか、女剣劇、安来節（ドジョウすくい）、講談常設小屋など幅広い大衆娯楽施設が集まっていた。

戦後も映画館中心ににぎわいを見せたが、映画の衰退に加え、アクセスの悪さから、新宿など新興繁華街にその地位を奪われていった。

▲昭和6年1月15日の藪入りの風景。浅草では、少年店員たちのハンチング姿が目立った。

ナンセンス、お色気、ジャズ、風刺……学生・インテリ層も熱中した軽演劇の殿堂

「カジノ・フォーリー」「ムーラン・ルージュ」の輝き

スを落とすという評判なので大きなマスクをして見に行った。すると最前列にやはりマスクをした男がいるではないか。よく見るとこれが水谷長三郎であった」（向井爽也『にっぽん民衆演劇史』）と振り返る。水谷も大衆的人気を持つ無産政党のリーダーだった。

「カジノ」と人気を二分 作品本位の「ムーラン」

「カジノ」など浅草軽演劇を継承しながらも、ひと味違った都会風な新喜劇で、インテリ、学生中心に人気を二分したのが、新宿の「ムーラン・ルージュ（赤い風車）」だった。軽演劇のルーツをたどると、「カジノ・フォーリー」、古川ロッパの「笑の王国」、「ムーラン・ルージュ」のいずれかにたどり着くと言われる。

昭和六年大晦日にスタートした「ムーラン」のメンバーは、興行主の佐々木千里（元玉木座支配人）をはじめ浅草出身者が多かった。が、新興の歓楽街で、しかも新宿を起点とする鉄道沿線にサラリーマンや学生が多かったことから、「ムーラン」は、よりインテリ好みの出し物が中心だった。「カジノ」はエノケンなど人気スターが看板だったのに対し、「ムーラン」は役者よりも作品そのものが看板となり、新風を吹きこんでいったのである。それらの作品の中には、新劇の草分けである築地小劇場の舞台で演じられてもおかしくない、と評されるものもあったほど。作者の中には吉行エイスケ（作家・吉行淳之介の父）、中村正常（女優・中村メイコの父）などもいた。そして全盛期の「ムーラン」を支えた作家が伊馬春部だった。後に、十朱幸代が人気者となったテレビドラマ「バス通り裏」を書いている。また、常連客には作家・志賀直哉、文藝春秋社の社長でもある作家の菊池寛、吉屋信子らがいた。

これらの軽演劇は、戦火が広がる中、権威を皮肉りパロディ化したため、厳しい検閲、取締りの嵐に見舞われていくのである。

▲「カジノ・フォーリー」のダンサーが着用した大胆なコスチュームと露出度の高さが人気を呼んだが、「ズロース事件」を機に浅草象潟署は〝エロ演芸〟取締りに乗り出す。

画のベンチに腰をかけ、弁当を使い胸がつかえたようなジェスチャーのあげく、噴水の画から水を飲む、など斬新で奇想天外なギャグが連発されたのである。

日本で初のレビューが演じられたのは、昭和四年七月、浅草・奥山の水族館二階でのこと。「カジノ・フォーリー」という小劇団が公演したが、最初は閑古鳥が鳴いていた。しかし、「カジノ」は、川端康成の新聞小説「浅草紅団」に描かれて評判を呼ぶ。さらに「金曜日には踊り子がズロースを落とす」という噂が広がるや、押すな押すなの大盛況となる。その中心にいた大スターがエノケンだった。

エノケンは、その後二年たらずの間に、「カジノ」から、玉木座、オペラ館と、同じ浅草の舞台をめまぐるしく移り替わる。利害、面子、人間的感情むき出しの離合集散があったが、エノケンらの浅草軽演劇は全盛時代を迎えようとしていた。

この時代は世界恐慌、浜口雄幸内閣の厳しい財政緊縮政策などで、全国に四〇万人近い失業者があふれていた。人々はカフェー、ダンスホールにはけ口を求めた。退廃的な歌がはやり、「エロ・グロ・ナンセンス」の時代と言われたのである。

権威を笑いのめし、お色気たっぷりなレビューは爆発的な評判を呼び、庶民はもとより、学生やインテリ層によって「カジノを見る会」が結成されたほど。ファンは川端のほかにも文士・武田麟太郎、小林秀雄、青野季吉、画家・藤田嗣治という具合である。小林は「カジノが日本で最初のストリップ・ショオですかな。（中略）かぶりつきで舞台を見上げて興奮を感じた」と言う。戦後、全盛期の社会党委員長だった鈴木茂三郎も「ズロー

▲「ムーラン」の昭和九年三月公演、伊馬鵜平（後に春部）作「かげろふは春のけむりです」の舞台。

明日待子蔵

毎日新聞社

▲昭和6年12月31日に開館した「ムーラン・ルージュ」。定員430人、屋根の上の赤い風車が目印の小劇場だった。

一五年戦争につながる謀略の構図
軍部の自作自演の柳条湖事件をきっかけに
「満州事変」勃発！

写真は、北大営を占領後、警備にあたる日本軍。 毎日新聞社

「満蒙は帝国の生命線」を呼号し、大陸進出を狙っていた軍部、中でも関東軍は、みずからの手で満鉄線路を爆破し、中国軍による事件と強弁して軍事侵攻を本格化した。「満州事変」である。これを機に日本は泥沼の一五年戦争に突入し、ひたすら破滅への道をたどることになる。

石原莞爾ら高級将校がくわだてた柳条湖事件

満天に星が輝く夜だった。午後一〇時二〇分頃、ズッドーンという爆発音と地鳴りが満州（中国東北部）中央部に位置する奉天（現・瀋陽）の町に響き渡った。

昭和六年九月一八日、奉天駅から東北へ約七・五キロの地点にある柳条湖付近の満鉄（南満州鉄道）線路が爆破されたのである。しかし、その被害は、直後に急行列車が通過できるほど少なかった。

遼東半島南端と満鉄の守備を目的に駐屯していた関東軍は、これを中国軍によるものとして、すぐに張学良（満州を支配した軍閥で、関東軍に爆殺された張作霖の息子）率いる中国東北軍の兵営・北大営と、司令部がある奉天城を攻撃。翌一九日にはこの二つを占領する。

この事件は小型爆薬を使った河本末守中尉ら日本人将校による〝自作自演劇〟だったが、それに続く電光石火の進撃は、満州占領計画の序曲にすぎなかった。

もとはといえば、満蒙（満州と内モンゴル）は、ロシアとのポーツマス条約（明治三八年）と、中国に対する二一ヵ条の要求（大正四年）で得た日本の〝特殊権益〟だった。重工業資源の補給地になりうる満蒙に、政府は一〇〇万人を移住させ、一六億一六六九万円の資本を投下。さらに、ソ連に備える戦略地として、約一万人の兵力を駐屯させていた。「満蒙は帝国の生命線」と考えられていたのである。一方で、政府は幣原喜重郎外務大臣による〝協調外交〟のもと、経済利益が保持されるかぎりは中国への軍事介入は控える立場を貫いていたが、張学良が、昭和四年頃から満鉄を包囲する鉄道網を建設すると、日本の〝権益〟はジワジワとせばめられていく。

「中国ナショナリズムと反日機運の高まりを背景に、蔣介石政府から鉱山開発など主要財源を取り上げられた張学良が、鉄道、石炭などの殖産興業政策に踏み切り、満鉄などの資本や在満邦人との間で対立が起きたのです」と解説するのは、東京女子大学教授の松沢哲成氏である。

そんな折も折、満州興安嶺方面を調査旅行していた中村震太郎大尉が、中国軍に殺される事件が発生。日中の緊張関係が沸騰点に達したのを好機到来と見て、石原莞爾作戦主任参謀（四二）ら高級将校が引き起こしたのが柳条湖事件だった。

これに対し、政府は直後の一九日に閣議で事態の不拡大方針を決定するが、陸軍は無視し、独走を続けることになる。

箸を転がして占った満鉄線路の爆破計画

「満州事変」が起きる直前の日本は、失業者があふれ、労働争議や小作争議が頻発、深刻な不況にあえいでいた。それだけに、内外の日本人は生活不安をぬぐいさるきっかけとして「満州事変」に喜び勇んだ。「軍部の行動は中国軍の不法攻撃に対する自衛行動だ」といった投書が国内の新聞・雑誌に殺到したのである。

時を同じくして、「今年は一九三一年だからイ・ク・サ・ハジマル。流血の惨禍はまぬがれない」と事変を予想した大本教の出口秀蔵が、巡歴先の満州で邦人の熱狂的歓迎を受けている。

「柔軟外交路線をとろうとする浜口雄幸内閣も、与党・民政党と汚職・醜聞の暴き合いに明け暮れている野党も、ともにあてにならない。そんな民衆の不満につけこんだのが、石原莞爾らの陸軍将校でした。彼は日米決戦の前提となる『東亜連盟』を満州に作るため、板垣征四郎関東軍高級参謀（四六）とともに、武力による満州

▲満鉄線路の爆破音を合図に、夜間演習中の日本軍は北大営と奉天城の攻撃を開始。

▲石原莞爾中佐と組んで、柳条湖事件を計画した板垣征四郎大佐。

▶昭和七年一月三日、錦州に飛行機で乗りこんだ石原莞爾中佐（中央）。

毎日新聞社

▲中国軍と衝突した天津警備の日本軍は兵力がたりず、在留邦人が猟銃を持ち出して義勇軍として軍に協力した。 毎日新聞社

占領を進めていたのです」（松沢氏）

石原は、事件の二日前、板垣らと関東軍の将校を集め、柳条湖爆破を実行するか否かの結論を出せぬまま、朝方まで酒を酌み交わしている。

「俺が箸を立てるから、右に転べば中止、左に転べば爆破決行。それで決めよう」

将校の手から離れた箸は、右へ転がる。「やはり中止か」の溜息に、「俺は一人でもやるぞ」「抜け駆けは許さん」と、収拾がつかなくなった酒席で、板垣のもらした「やるか」の一声が、日本と中国の運命を大きく変えることになった。

さらに、陸軍の一派も、クーデターをたくらんでいた。橋本欣五郎中佐を中心とする桜会（軍中央の佐官グループや一部青年将校の会）が、関東軍に呼応してクーデターで政府に脅しをかける約束を取り決めていた。この「一〇月事件」は未遂に終わるが、こうした動きは、政府上層部の恐怖心をあおり立て、浜口内閣の後を継いだ若槻内閣は関東軍の既成事実に押し切られてしまうことになる（一二月に内閣は総辞職）。

▲「天津暴動」を立案し実行した、土肥原賢二大佐。

もちろん、軍中央が関東軍の独断専行に関与していなかったわけではない。陸軍の政策立案権を持つ永田鉄山軍事課長が、奉天攻撃に使う二四インチ榴弾砲の内地からの輸送を許していた事実からもわかるように、軍中央も関東軍の独断専行を暗黙のうちに了承していた。だからこそ、関東軍は、営口、長春、吉林などへ大規模に進軍することができたのだった。

また、関東軍は清朝の廃帝・溥儀を利用した傀儡政権樹立を画策し、一一月八日、奉天特務機関長・土肥原賢二大佐の謀略により天津で暴動が引き起こされた。溥儀は混乱に乗じて天津を脱出、日本船「淡路丸」で営口に向かう。

そして、勢いにまかせて関東軍は、翌七年の一月三日に錦州も占領。事変から約五ヵ月で満州の大半を制した。「満州事変」は、太平洋戦争へとつながる一五年戦争の端緒となったのである。

▲11月17日、広島宇品港を発つ第8師団（弘前）兵士を、市民ら多数が見送った。 毎日新聞社

女たちの肖像

事前の〝酷評〟はどこ吹く風 田中絹代が初のトーキーで ファンをしびれさせた甘い声

稲葉真弓

この年の八月一日、日本映画界にとって画期的な事件があった。日本初のトーキー「マダムと女房」（五所平之助監督）が封切られたのである。八月二一日号の「キネマ旬報」は、「初めて僕等は日本にもトーキーがある！　と世界に告げることができるようになった」と報じているが、内実はトーキーに反対する声も少なくなかった。俳優の声が問題になったのである。槍玉にあがったのは大河内傳次郎と、この映画の主演を担った田中絹代（二一）で「台詞が舌足らずの大河内傳次郎はまず没落、田中絹代のピーピー声も悲しき運命」と書かれたりした。

しかし映画が公開されると、田中絹代が夫役の渡辺篤に「ねえ、あなた」と呼びかけたり、「もちよ」と答える甘い声がファンを魅了し、「ねえ、あなた」「もちよ」はたちまち流行語に。

独特の甘い声は以後彼女のトレードマークになり、一三年には子持ちの看護婦を演じた「愛染かつら」が大ヒット、メロドラマブームに火をつけた。が、彼女がすごみのある演技を見せ始めたのは、溝口健二監督に出会い、「西鶴一代女」（二七年）で鬼気迫る夜鷹を演じてからだった。以後彼女は「雨月物語」（二八年）、「山椒大夫」（二九年）など溝口作品にたてつづけに主演、円熟した演技で不滅の名作を残した。

明治四二年、山口県に生まれた彼女は、四男四女の末っ子。大正五年、家の事情で大阪に転居、小学校にかようかたわら筑前琵琶を習い同九年「琵琶少女歌劇」に入団。一三年、一四歳で松竹に入社、「元禄女」でデビューした。

▲「伊豆の踊子」も戦前の代表作。

私生活では一八歳の時、清水宏監督と婚約したが二年で破局。溝口監督とも結婚を噂されたが、真相は溝口監督の片思いだったという。彼女自身、後に「私は映画と結婚した」と語ったが、映画一途の人生を選び、終生、単身者として生きた。

昭和四九年には「サンダカン八番娼館・望郷」の元からゆきさんの老女役でベルリン国際映画祭最優秀女優賞を受賞したが、大女優の晩年は孤独だった。自宅は抵当に入り、脳腫瘍に冒された時は入院費にもこと欠くありさま。又従兄弟の映画監督・小林正樹らが奔走したが、まもなく失明状態になり、五二年三月に逝去。「目が見えなくても、やれる役はあるかしら」と最後まで〝女優〟の執念を見せたという。

勝者・敗者

超人・南部忠平の快挙！ 余技の走り幅跳びで 「人類の夢」に迫る世界新

阿部珠樹

この年、一〇月二七日開幕した神宮体育大会は、初日から大きな興奮に包まれた。陸上競技で二つの世界新記録が誕生したのだ。明治の末、金栗四三が出したマラソンの非公認世界最高記録を別にすれば、日本陸上界初の快挙である。

まず世界新記録の口火を切ったのは、三段跳びの織田幹雄（二六）だった。従来の記録を六センチ更新する一五メートル五八。しかし、三年前のアムステルダム五輪で、日本陸上史上初の金メダルを獲得し、第一人者と見られていた織田の世界新記録は、実力から見ても妥当なところであり、さほど驚くにはあたらなかった。

満場の観客や関係者が驚かされたのは、それに続く走り幅跳びの新記録だった。記録の主は南部忠平（二七）。アムステルダムでは、三段跳びで四位に入賞した選手である。

競技が専門化した現在では考えられないことだが、南部はいわば余技とする走り幅跳びで世界の壁を飛び越えてしまったのだ。記録は七メートル九八。「人類の夢」と言われた八メートルに、あと二センチと迫る大記録だった。

二つの世界新誕生で、翌年に迫ったロサンゼルス五輪への期待は大きく膨らんだ。

そして本番のオリンピックでもその期待は裏切られなかった。南部は世界記録を出した走り幅跳びこそ三位に終わったが、織田に代わって出場した三段跳びでは、神宮大会で織田が出した世界記録を大きく更新する一五メートル七二の世界新記録で金メダルを獲得する。

つまり南部は九ヵ月の間に、走り幅跳びと三段跳びの二つの種目で、世界新記録をたたき出したのである。南部は、現代で言えば、マイケル・ジョンソンやカール・ルイスに匹敵するようなスーパー・アスリートだったのだ。

南部の走り幅跳びの記録は、長い間日本記録として君臨し続けた。それが破られるのは実に三九年後の昭和四五年、山田宏臣によってであった。この長い時間は、そのまま、日本の跳躍界の長い低迷の時間でもあった。

▶同日、世界新を記録した織田幹雄（右）と、大会後に記念撮影。 南部久子提供

共同通信社

毎日新聞社

▲「禁酒法案」提出へ署名運動(1月16日) 25歳以下禁酒法期成同盟婦人部や矯風会などが東京の6ヵ所で実施。「目覚めたらいつも留置所」の夫に手を焼き、運動に加わった婦人も。写真は東京駅前で。

▼元横綱常の花(34)、断髪式(1月5日) 前年5月場所8日目に3敗目を喫すると、突然引退表明、散り際のよさを印象づけた。岡山県出身、昭和初期の名横綱と言われ、優勝6回。年寄藤島を襲名した。

▶早川雪洲、太平洋上のフェアバンクスと無線電話(1月17日)中央電話局が航行中の豪華客船と交信、太平洋無線電話時代の第一ページを飾る電話を、日米を代表する映画俳優二人の声で飾った。

▼急行列車、川へ転落(1月12日) 山陽本線の下関発東京行き急行列車が、広島県の椋梨川橋梁を通過中脱線、5両が川に転落。死傷者は110人。原因は速度の出しすぎ。

朝日新聞社

▲羽根つき競技会開催(1月17日)日比谷公園内の新音楽堂前に市内小学校10校が集まり、7人制バレーボールといった趣で練習の成果を競い合った。東京市が主催、優勝した小学校には市から優勝カップが授与された。

▼近衛連隊、軍旗祭(1月23日)歩兵第1・第2連隊が58回目の祭典を挙行。東京府立四中の生徒たちが、分列行進(写真)したほか、余興に浅草レビュー団が登場、兵士らを喜ばせた。

朝日新聞社

毎日新聞社

昭和6年1月

1(木) ●田河水泡のマンガ「のらくろ二等卒」、「少年倶楽部」に連載開始。
●東京・大阪両放送局、初の二元放送を実施。

2(金) ●正月も操業の福島炭鉱で落盤事故。七人死亡。

3(土) ●年末年始の国鉄収入が前年比一一%の減収。

4(日) ●前年の労働争議件数は、一一ヵ月で年間最高記録を突破との内務省調査を新聞が報道。

5(月) ●元横綱常の花が断髪式。年寄藤島を襲名。

6(火) ●ロンドン銀塊相場が暴落し史上最安値を記録。

7(水) ●米国失業救済調査会、全米の推定失業者五〇〇万人以内とフーバー大統領に報告。

8(木) ●初輸入の米国製発声映写機五台が横浜に到着。

9(金) ●五年の生糸輸出高前年比五割減(生糸恐慌)。

10(土) ●中学校令が改正され柔道・剣道が必須となる。

11(日) ●林武、福沢一郎ら独立美術協会第一回展開催。

12(月) ●日銀、定年を六〇歳から五五歳に引き下げ。
●風間丈吉ら、日本共産党ビューローを再建。

13(火) ●婦選獲得同盟と婦人参政権協会、共同委結成。

14(水) ●台湾総督・石塚英蔵、前年起きた霧社事件の責任とり辞表提出(16日太田政弘が就任)。

15(木) ●台湾の台北放送局、本放送を開始。

16(金) ●全国の学校に「永久不変色の御真影」配付開始。
●安達峰一郎、国際司法裁判所裁判長に就任。

17(土) ●馬島僩、石本静枝ら日本産児調節連盟を結成。

18(日) ●横綱宮城山、引退(7年まで横綱不在)。

19(月) ●新渡戸稲造らの軍縮国民同盟が発会。「日本の軍事費は世界無比の高率」と軍縮促進決議。

20(火) ●東京市、五〇ヵ所に自動信号機の設置を決定。信号手三〇〇人のうち二〇〇人が失職。

21(水) ●四年の外国人宿泊者六万三三八〇人と鉄道省。

22(木) ●愛知県弥富町の金魚を一〇万尾積み、シアトル向け「日枝丸」が四日市港を出港。

23(金) ●政友会の松岡洋右、「満蒙(中国東北部と内モンゴル)は帝国の生命線」と衆院で政府批判。

24(土) ●「一二歳の天才少女現る」と「朝日新聞」が、バイオリニスト諏訪根自子を紹介。

25(日) ●日本舞踊協会、日本橋倶楽部で発会式。

26(月) ●平野力三ら、日本農民組合を結成。

27(火) ●宮崎県上江村の古墳を盗掘し、曲玉や鏡などを売りさばいていた一九人を送検。

28(水) ●全国大衆党系の無産者診療所、大阪に開設。

29(木) ●ブラジルへ寄贈する桜一二〇〇本、横浜出港。

30(金) ●井上蔵相、各省の年度末ボーナス全廃と発言。

31(土) ●ブラジル移民が再開され、第一陣が神戸出港。

1931

フォト＋日録で再現する365日

長い不況、冷害による農民の窮迫という深刻な国内事情と、対中国政策の手詰まりを背景に陸軍の一部はひそかに政権奪取をはかった。三月事件、一〇月事件である。そして、中国では関東軍が「満州事変」を引き起こした。第二次大戦につらなる一五年戦争が始まった。

◀大阪城天守閣復活(11月7日) 5層7階、鉄骨コンクリート造り。外観は創建当時の桃山時代そのまま。大礼記念事業として260年ぶりに再建。公園も竣工した。式典後、千成瓢箪を掲げた時代行列などでにぎわった。
毎日新聞社

共同通信社

▲松竹が「健康美女優」募集（2月16日）東京の松竹蒲田撮影所に、北は樺太から南は台湾まで約300人が集合、記者団公開の水着審査（写真）で90人が選抜され、後日、さらに面接試験などで数人の女優の卵たちが選ばれた。

毎日新聞社

▲産児調節研究所開く（2月）奥むめお（35、右から二人目）らが前年10月、東京・本所に設けた婦人セツルメント内に開設。婦人の受胎調節相談などで、困窮する母子の救済にあたった。

▼上野公園に東京科学博物館完成（3月5日）9900平方メートル、3階建てで、お茶の水旧館から移転。世界一の貝類の標本など内容を充実させ11月5日、正式に開館した。

朝日新聞社

▲全日本スキー選手権で地元樺太の中学が優勝（2月7日）豊原中チーム（写真）が32キロリレーで早大、明大などを退け、中学生では大正12年の小樽商以来の優勝をはたした。

川喜多記念映画文化財団提供

▲初の字幕つき米映画「モロッコ」封切（2月11日）北アフリカの外人部隊兵士と酒場の歌姫との恋物語をゲイリー・クーパーとマレーネ・ディートリッヒが演じ、評判になった。

▶山田耕筰、渡欧（2月12日）パリのシャンゼリゼ劇場から招待され、自作オペラ「黒船」を観たほか、7月にはモスクワでレニングラード・フィルを指揮した。9月帰国。

朝日新聞社

昭和6年2月

1（日）●東京―神戸間の急行に三等寝台車の運行開始。
●明治製菓、宣伝を兼ねキャラメルの自動販売機を省線の主要駅に設置。

2（月）●岩手県釜石町の理髪師が不況で散髪できない子どもに衛生デー開催。一二〇〇人を丸坊主。

3（火）●幣原首相代理、ロンドン軍縮条約は天皇の批准済みと答弁。天皇に責任転嫁と問題化。

4（水）●松竹女優の加入で、容姿保険が流行と新聞に。
●専売局、タバコの直売制導入を小売商に通告。

5（木）●東京航空輸送、初のエア・ガール採用試験実施。

6（金）●幣原問題で政友・民政院外団が議会内で乱闘。

7（土）●大阪で小売商組織が百貨店に対抗し大会開催。

8（日）●徹底婦選求める無産婦人大会デモで多数検束。

9（月）●青森県、中学入試問題はメートル法でと指示。
●エロ取締りの民衆娯楽調査委員会が初会合。

10（火）●長岡輝子ら、劇団テアトル・コメディ結成。

11（水）●M・ディートリッヒ、G・クーパー主演「モロッコ」、初の邦文字幕つきで封切。
●名古屋城、一般に公開される。
●堺利彦、故郷の福岡県行橋町に農民学校開校。

12（木）●国産戦闘機川崎五型、上昇速度の世界新記録。

13（金）●秋田で約二五万円の紙幣偽造団（四二人）発覚。

14（土）●東京・お茶の水に家庭教育相談所開設。

15（日）●第一回全日本女子バスケットボール選手権大会開催。愛知県淑徳高女が優勝。

16（月）●セメント連合会、五割の操業短縮続行を決定。

17（火）●禁酒二〇団体が二五歳以下禁酒法期成大会。

18（水）●台湾総督府、台湾人による唯一の政治結社である台湾民衆党に解散命令を下す。

19（木）●鉄道省、不況のため現業員に月二日の公休日。

20（金）●新潟医大の川村麟也教授、つつが虫病、発疹チフスの病原体発見の研究成果を学会発表。

21（土）●大日本華道協会、発会。華道八派が合同。

22（日）●全国盲人大会、盲人保護法制定などを決議。

23（月）●青森県で氷点下二四・七度、四五年ぶり寒波。

24（火）●浜松の飛行連隊、重爆撃機二機が浜松―太刀洗間の初の夜間無着陸飛行に成功。

25（水）●三一組合参加し第一回全国消費組合協議会。

26（木）●演習中の空母「赤城」で艦載機転落。二人死亡。

27（金）●全国産業団体連合会設立。資本家の大同団結。

28（土）●婦人公民権法案、衆院で可決。市町村選挙で二五歳以上に投票権（3月24日貴族院否決）。
●警視庁、興行取締規則改正。映画館の男女別席廃止、一二歳以下の幼児入場禁止など。

野沢正提供

▲エア・ガール誕生（3月5日）東京航空輸送会社が2月に機内サービスをする女性を募集。141人から、この日3人の合格者が決まった。しかし、4月29日には薄給と機内の狭さに驚き、全員が退職した。

共同通信社

▲大阪中央卸売市場完成（3月28日）分散していた市場を此花区福島にまとめ、市民の新しい台所として効率化と設備の近代化をはかるため新設。この日落成式（写真）。広さ11万1110平方メートル、11月11日に開場した。

「新潟県県民百科辞典」／野島出版提供

▲高品質の水稲早生種「農林1号」誕生（3月）新潟農事試験場の並河成資（写真）らが品種改良に成功、多収のため急速に普及した。命名は農林省の品種改良試験制度で開発されたことによる。

▶病の浜口首相、衆院本会議に出席（3月10日）前年に狙撃され療養中だったが、野党・政友会の連日の登院要請に応じた。しかし、結局この無理がたたり8月に死去する。写真は首相用に特別の椅子を用意する衆議院職員。

▶3月事件未遂（3月20日）橋本欣五郎陸軍中佐（右）ら秘密結社・桜会を中心とする軍部急進派が計画。クーデターにより、宇垣一成陸軍大臣（左）を首相とする軍事政権樹立をはかるものだった。事件は一人の処分者も出さず、後の10月事件へと受け継がれた。

毎日新聞社

長島愛生園提供

◀長島愛生園に初の入園者（3月27日）初の国立ハンセン病療養所が、完全隔離策がとられていたため、瀬戸内海の小島に前年開園した。この日連合府県立の全生病院などから86人が、光田健輔園長とともに到着した。

昭和6年3月

1（日）●製糸業、全国一斉休業を実施（3月末まで）。
●ブリヂストンタイヤ設立（本社・久留米市）。

2（月）●閣議、海軍工廠の八九〇〇人解雇を決定。

3（火）●弁士の徳川夢声ら、説明者協会を設立。
●「星条旗」を米国歌とする法案が上院で成立。

4（水）●ガンジー、政治犯の釈放を条件に不服従運動の停止を約束するデリー協定に調印。

5（木）●東北帝大、教授の六一歳定年制実施と決定。

6（金）●一九歳の宮森美代子、千葉県津田沼海岸で女性では日本初のパラシュート降下に成功。
●大日本連合婦人会発会式。理事長・島津治子。
●鈴鹿上空で日本空輸機から初の飛び降り自殺。

7（土）●東京市の熟練大工の三割以上が失業と新聞に。

8（日）●陸軍記念航空演習の煙幕剤撒布で数百人火傷。

9（月）●文部省、小学校専属看護婦の養成講習を開始。

10（火）●浜口雄幸首相、狙撃後一一七日ぶりに登院。

11（水）●不況で売れず、各地で古酒投げ売りと新聞に。

12（木）●西本願寺、女性僧侶公認を決める。

13（金）●貴族院、一四億四八五二万円余の昭和六年度予算案可決（軍事費は三億九八七二万円）。

14（土）●海軍省、軍縮条約による艦艇二一隻廃棄通達。

15（日）●大阪市港区に日本初の児童福祉施設「水上子どもの家」が開設される。

16（月）●ソ連通商代表が狙撃され重傷、犯人は自首。

17（火）●参宮急行電鉄の大阪上本町―宇治山田間開通。

18（水）●火災保険各社、契約難のため保険料引き上げ。

19（木）●中島飛行機、初の六人乗り国産旅客機を完成。

20（金）●桜会の橋本欣五郎ら陸軍急進派がクーデター未遂（三月事件。宇垣一成内閣樹立を企図）。

21（土）●野坂参三、モスクワに向け秘密裡に出国。

22（日）●「中央公論」四月号、発禁の原因となった片山潜論文を削除、改訂版として再発行。

23（月）●六〇銭が五〇銭に、大阪で理髪料値下げ。

24（火）●震災復興三大公園のひとつ、隅田公園が開園。

25（水）●竹久夢二、新宿・三越で一〇年ぶり個展を開く。

26（木）●日英間無線電話通信テストが成功。

27（金）●日本郵船と大阪商船、海運不況打開のため業務提携を発表（4月6日調印）。

28（土）●郵政省、郵便物にメートル法を導入。

29（日）●三〇〇人のスリ団東京潜入に警視庁緊急手配。

30（月）●東京湾埋め立てに反対の漁民五〇〇人がデモ。

31（火）●関西初の地下運転区間、京阪電気鉄道（現・阪急）の京都西院―四条大宮間が開通。
●東京のホテル・ボーイ養成所で初の卒業式。

◀**スペインに第2共和国発足(4月14日)**12日の地方選挙で共和派が王党派を都市部で圧倒、アルフォンソ13世は地方との内戦をおそれて亡命。共和派指導者アルカラ・サモラが首相に就任、暫定政府が樹立された。写真は歓喜のマドリード市民。

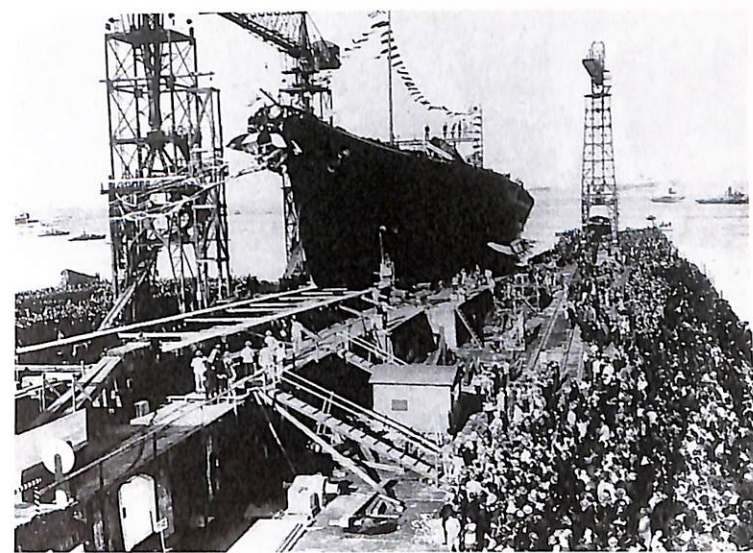
Popperfoto／ユニフォト・プレス

▼**竜巻で陸軍機19機大破(4月5日)**福岡県太刀洗飛行隊付近に雷雨をともなう大旋風が発生。4人が死亡し、陸軍飛行第4連隊の格納庫、民家など約100戸が倒壊して、格納庫の乙式偵察機16機をはじめ計19機が大破した。

毎日新聞社

◀**テレビ放送実験(4月)**ニューヨークのWGBS放送局が、人の姿と声を同時に映し実用近しを印象づけた。日本では高柳健次郎が昭和3年に「動く映像」を紹介、16年に実験放送が始まった。

▼**空母「龍驤」進水(4月2日)**写真は横浜ドックの式典。排水量7600トン、小型ながら「列強に誇るにたる空母」と言われた。後に改装され、昭和17年ソロモン沖で撃沈された。

影山光洋

▼**16ミリ撮影会(4月19日)**大阪・新町の浪花踊り会場で開催。映画人気を背景に起こった自分の映画を作ろうとする動きだった。ただし撮影機1台だけで270円余。警官の初任給45円の時代である。

共同通信社

▼**にぎわう上野動物園(4月)**3月から「無柵放養式」など動物の解放をめざす「大改造」の成果を問う50年祭を開催。10月には日本初の猿山も完成。写真はこの月撮影した親子連れ。

昭和6年4月

1(水)●重要産業統制法公布(8月11日施行)。●中央本線の東京—甲府間の電化が完成。●東京航空輸送にエア・ガール三人が乗務開始。
2(木)●警視庁、「幸運の手紙」に注意とラジオで警告。
3(金)●昭和肥料、初の国産技術による合成硫安生産。
4(土)●南米からの初の観光団二一人が横浜入港。
5(日)●妹尾義郎ら革新派、新興仏教青年同盟を結成。
6(月)●日本放送協会、第二放送(「空中学校」)を開始。
7(火)●秋田雨雀ら、反宗教闘争同盟準備会を極秘に結成(9月20日創立大会開催)。
8(水)●明治神宮野球場の拡張工事完成、六万人収容。
9(木)●タバコ包装用銀紙の含有鉛分が九割のため健康上問題と指摘され大蔵省が協議、と新聞に。
10(金)●石炭鉱業連合会、五%減産を決定。
11(土)●京都で第一回染織祭開催(~13日)。
12(日)●明治神宮上空で「空中結婚式」を挙行。
13(月)●「排日の地」と言われたカリフォルニア州ターロック市、日米人大懇親の夕を開催。
14(火)●第二次若槻礼次郎内閣成立。主要閣僚は留任。●東京・銀座で柳祭り(柳並木が復活)。●スペインで国王が亡命し第二共和国が成立。
15(水)●橘孝三郎、水戸に農本主義私塾「愛郷塾」設立。
16(木)●内地の自動車八万二〇五〇台と内閣資源局。
17(金)●自作農創設・維持貸付金の回収難が深刻で、政府は一八県の償還延期を許可。
18(土)●日本窒素延岡工場、銅アンモニア法によるレーヨン(ベンベルグ・キュプラ)の製造開始。●直良信夫、兵庫県で「明石原人」の寛骨発見。
19(日)●千葉県市川で「花見デモ」を敢行したモップル(赤色救援会)のメンバー三二人検挙される。
20(月)●東京の市営バスと民営バスが料金値下げ協定。
21(火)●労働運動対策のため全国産業団体連合会設立。
22(水)●共産党、運動の急進化をうながす政治綱領「三一年テーゼ」を「赤旗」に発表。
23(木)●文部省、名古屋市の八幡山古墳を史跡に、木曽川中流の日本ライン周辺を名勝に指定。
24(金)●婦人矯風会、全国の小学校に『禁酒読本』発送。
25(土)●台湾で第二次霧社事件勃発。二一六人惨殺。
26(日)●浅草の日本染絨争議で二一日突入のハンストにより二〇人が倒れ、警視庁が解決を警告。
27(月)●ラジオ聴取契約七九万三九〇二人と放送協会。
28(火)●鉄道省のシャワー・噴水つき新形活魚車完成。
29(水)●中大・日大など東都五大学野球連盟を創立。
30(木)●大阪帝国大学の設置決定(5月1日開学)。

証言・あの日この日
堀　辰雄(26)

5月2日(土)〈今朝も七時ごろに目が覚める。／それから一時間ばかり、私は寝床の上で、新聞を読みながら、日光浴をやる。／その時分になるともう朝日が一ぱい寝床の上にあたりだす。／八時ごろやつと起きる〉(堀辰雄「日付のない日記」)

堀辰雄はこの年、26歳で富士見高原療養所に入院した。当時肺結核は「死の病」であったが、堀は高原の避暑地「軽井沢」を舞台に、肺結核を聖なる病として美化して描いた。病気と死、そして軽井沢。その西欧的なハイカラなイメージにつられて「肺病になりたい！」文学青年が続出。この頃から軽井沢は西欧かぶれの文学青年たちの聖地となる。結核で夭折した詩人・立原道造をはじめ、福永武彦、中村真一郎なども、暗い現実から逃避するように「軽井沢詣で」を繰り返した。(山崎行太郎)

松坂屋提供

▲**野球速報板(5月10日)**六大学野球ブームとあって、この頃各地に登場した。松坂屋上野店の屋上では、この日、早明1回戦を速報。ボールの動き、走者の位置などを、ラジオの実況放送とともに人形などで板の裏側から示し、ファンの興奮を誘った。

共同通信社

▲**新警視庁舎落成(5月29日)**4年の歳月を経て竣工。昭和4年に都市美協から宮城を見下ろしていいのかとの苦情で、円塔上部約10メートルのドームをそっくり取りのぞいた。

▶**官吏減俸断行(5月27日)**政府は経費節減を理由に全官吏への1割削減を意図。しかし強力な反対を受け、月給100円以上の官吏に限った。写真は反対決議案を出す農林省職員。

▲**気球で初の成層圏到達(5月28日)**スイスの科学者ピカール(左)が水素ガスを充填した直径30メートルの気球に乗り、前日未明ドイツを出発。この日、地上1万6940メートルに達し、チロル山中に着陸した。

▼**前進座結成(5月22日)**東京・芝で創立総会を開催。歌舞伎の封建制を批判して春秋座を脱退した河原崎長十郎(写真2列目右端)、中村翫右衛門(その後ろ)ら31人が参加。革新的大衆演劇をめざし、昭和12年には吉祥寺に演劇映画研究所を建設、全員が集団生活に入った。

前進座提供

昭和6年5月

1(金)●「東京朝日新聞」に解説つきラジオ頁新設。●一〇二階建てエンパイア・ステート・ビル完成。
2(土)●井上蔵相宅でダイナマイト爆発(右翼逮捕)。
3(日)●陸軍、師団改編などの軍制改革大綱を決定。
4(月)●横浜ドック、九九八人の人員整理を発表(9日実施。退職金は平均五七三円)。
5(火)●発動機製造(現・ダイハツ工業)、オート三輪「ツバサ号」の本格的生産を開始。
6(水)●村岡花子ら、女子童話会を結成。
7(木)●商工省、国産車の生産促進のため調査会設置。
8(金)●ニューヨークの連銀、公定歩合を二%から一・五%に引き下げ(空前の低率)。
9(土)●報知新聞の太平洋横断機、択捉島に不時着。
10(日)●『江戸川乱歩全集』(平凡社)刊行開始。
11(月)●東京帝大航空研究所開所(所長・斯波忠三郎)。●オーストリア中央銀行倒産。金融恐慌深刻化。
12(火)●砂糖消費量が不況で四・七%減と大蔵省発表。
13(水)●M・ディートリッヒ主演の独映画「嘆きの天使」封切。検閲で四〇〇メートルカット。
14(木)●大相撲夏場所開幕。力士の大型化で土俵の直径を一五尺(約四・五メートル)に拡大する。
15(金)●東京市電二〇周年花電車二二〇台が運転開始。
16(土)●中国国民政府軍二〇万人、第二次掃共作戦開始(30日紅軍に逆襲され退却)。
17(日)●東京—青森マラソン。優勝は五五時間二六分。
18(月)●六大学野球慶明戦で敗れた明大応援の数千人が審判に抗議して騒ぐ(20日明大出場停止)。
19(火)●大阪YMCAアマゾン開拓青年団、神戸出港。
20(水)●共産党四・一六事件予審、八三人有罪で結審。
21(木)●延岡アンモニア絹糸(現・旭化成)、設立。
22(金)●河原崎長十郎・中村翫右衛門ら、前進座結成(6月12日市村座で旗揚げ公演)。
23(土)●バイオリニスト、ヨゼフ・シゲッティ来日。
24(日)●会計検査院、政府機密費(五〇〇万円)の整理、補助金・接待費の大幅削減などを提言。
25(月)●国鉄宮津線の網野—丹後木津間が開通。
26(火)●岡田嘉子、日大芸術科の舞踊講座講師に就任。
27(水)●官吏俸給を一割減らす俸給令改正公布。
28(木)●汪兆銘ら、広東に「国民政府」を樹立。●スイスのピカール、気球で初の成層圏飛行。
29(金)●日本学生航空連盟の訪欧機が羽田を出発。
30(土)●放送協会と米のNBCが日米交換放送を行う。●吉岡隆徳、一〇〇メートルで一〇秒五の日本新。
31(日)●ルネ・クレール監督「巴里の屋根の下」封切。

「現場」を歩く 明石
「幻の骨」に生涯をかけた一考古学者の見果てぬ夢

山本徹美

昭和六年四月一八日夕刻、兵庫県明石郡大久保村西八木の播磨灘に面した断崖を調査していた直良信夫（当時二九歳＝後に早大教授）は砂礫層に埋もれた寛骨（人体左側腰骨）を発見した。「誰が見ても化石」と判断した直良はさっそく人類学、考古学分野の著名学者に報告。

東京帝大人類学教室の松村瞭主任（昭和一一年没）は、「化石化の程度や所謂古色は太古のものたるを想わせ候」と好意的だった。が、直良が〝正規の教育〟を受けていなかったこと、旧石器時代が完全否定されていたこともあって、ろくに検討もされないまま太平洋戦争に突入。二〇年五月二五日、東京にあった直良の自宅は空襲を受け、海苔の缶に保管してあった寛骨は焼夷弾によって焼失した。

昭和二二年一一月六日、日本人類学会の重鎮、長谷部言人博士は例の寛骨が石膏模型として東大に残っていたのを発見、「明石原人」と命名、学会に発表した。

ところが、直良の意見を聞かず、八〇メートルも離れた場所を発掘調査したため成果が得られず、否定的な見方が強まった。さらに五七年には遠藤萬里東大助教授らが縄文以降の「現代人」と断定。またも論議を呼び、六〇年に再発掘調査となる。

その結果、木器が発見されるなど人類の存在した痕跡が確認された。再調査を担当した国立歴史民俗博物館の春成秀爾教授は、「明石人は今から六、七万年前の旧人あるいは新人に相当する」と、報告したのである。

▲発掘現場に立てられた標識。背後の斜面で問題の寛骨が発見された。現在、斜面の向こう側は住宅密集地に。 楠田守

骨につきまとう不運

西八木海岸に行ってみた。発掘現場には標識が立っていて、「明石原人」腰骨発見地、とある。かつて断崖だった斜面は雑草が生い茂り、東にはリゾートマンション、西には民家が立ち並ぶ。

「毎年、ゴールデン・ウィークには地元商店街の主催で『明石原人祭り』があって、原人コンテストで盛り上がるんですわ」

と、付近に住む男性。市立文化博物館に原人など展示してあると聞き、訪ねる。谷本卓館長（五九）の解説。

「明石の住民としては原人の時代から万葉、源氏物語を経て現在にいたるまで何万年もの歴史がある、と思いたい。館内では『原人』で違和感はないのですが、『旧人か新人』と表現してあります」

寛骨が原人のものかどうかをめぐって、直良は毀誉褒貶にさらされ、「すべてが虚しい」「俺に拾われたばっかりに因果な骨だ」（直良三樹子著『見果てぬ夢「明石原人」』）とわが身の不運を嘆く面もあった。そして、昭和六〇年一一月死去。

「恵まれなかったからこそ、直良さんは刻苦勉励してみずからの研究を推進させた。没後も動物考古学や化石鹿の研究など、直良さんの著作は続々と出版され、若い学者のよき指標とされています」（前出・春成教授）

再発掘は多くのボランティアに支えられた。直良の人柄、ひたむきさが共感を呼び、「幻の骨」へのロマンをかきたてたように思える。

▼直良は昭和7年から早大獣類化石研究室に勤務、35年教授に。
毎日新聞社

毎日新聞社

▲住友製鋼争議激化（6月20日）前月、減給に抗議してストに突入。この日、大阪の争議団本部周辺で支援組合員も加わって警官隊と激突。しかし7月に争議団が敗北した。写真は籠城態勢の争議団本部。

森永製菓提供

◀森永製菓、飛行機でキャンペーン（6月30日）不況下に積極策をとり、立川飛行場を出発し全国を巡回。3カ月でキャラメル300万個を売った。写真は訪問先の弘前練兵場で。

▲国際連盟調査団、吉原視察（6月18日）東洋の婦女売買の実情を調査するために来日中のジョンソン博士夫妻、サンドッキス女史ら6人が視察。同女史は「封建的な悪習の残滓」と厳しく批判した。

▼ミス・ニッポン発表（6月）「週刊朝日」が6月7日号に発表。美人コンクールは昭和4年頃からブームとなり、健康美・知性美が強く求められた。写真は優勝した山口県徳山で父親が医師の俵恒子（22）。
朝日新聞社

朝日新聞社

▲六大学野球にブラスバンドの応援団（6月13日）東京の神宮球場で行われた早慶戦の早大側に初登場。応援合戦に勝つことと、悪質な野次の撃退が目的だった。

▼もぐりの堕胎医師らを殺人罪で検挙（6月6日）産科医や薬剤師ら3人で、堺市の空き家で20歳の女性死体が発見されたことから発覚。堕胎に失敗、死体を遺棄していた。

毎日新聞社

昭和6年6月

1（月）●郵便集配人の制服変更。夏は白麻に蝶ネクタイとヘルメット。冬は濃紺のラシャ。

2（火）●飛行機玩具が教育界に進出著しい、と新聞に。

3（水）●フロックからモーニングへ、宮内省服制改正。

4（木）●東京水上署が白水着をエロで取締りと新聞に。

5（金）●大阪地裁、北但馬地震（大正14年）の火災で保険会社に二〇〇〇万円支払いを命令。

6（土）●堺市でもぐりの堕胎グループ発覚し三人逮捕。

7（日）●東京で「道路祭」。舗装率五五％完成を祝う。
●国際連盟の婦女児童売買状態調査団が来日。

8（月）●第一回日本相撲選士権大会で年寄春日野（元横綱栃木山）が現役力士を破り優勝。

9（火）●伊豆大島の少年感化院・六踏園で、酷使・虐待訴え九七人が暴動（二四人が騒擾罪で起訴）。

10（水）●早大大隈講堂で初のレスリング公開試合。

11（木）●運動競技場数の一位はテニス場と東京市発表。

12（金）●満鉄総裁に内田康哉が就任（仙石貢の後任）。

13（土）●六大学野球で早大応援にブラスバンド初登場。

14（日）●内務省、失業者救済に国道舗装工事を決定。

15（月）●斎藤実、朝鮮総督を辞任（後任・宇垣一成）。

16（火）●金沢警察署、カフェーの女給に飲酒・喫煙禁止。

17（水）●東京市、中央卸売市場（築地）の開設許可。

18（木）●満州青年連盟代表が来日、「満蒙の危機・幣原軟弱外交打破」を訴える全国遊説を開始。
●山本安英らの左翼劇場、若松市で襲撃される。

19（金）●日本最大の巡洋潜水艦「伊五号」、進水。
●参謀本部第一部長・建川美次、軍事行動による「満蒙問題解決方策」を策定。

20（土）●米大統領、戦時賠償金支払いの一年間猶予案を発表（フーバー・モラトリアム）。

21（日）●日露戦争の美談「一太郎やあい」の銅像除幕式。

22（月）●日本航空輸送の旅客機が福岡県の山中で墜落、乗客乗員三人死亡。初の旅客機墜落事故。

23（火）●警視庁、木賃宿を簡易旅館に改称と決定。

24（水）●特務艦「襟裳」、樺太沖の流氷のため航行不能。

25（木）●反共・反ファッショの日本労働倶楽部結成。

26（金）●阪妻プロ、二万円の約束手形不履行のため差し押さえを受け撮影不能となる。

27（土）●対ソスパイ作戦中の中村震太郎大尉ら五人が中国兵により射殺される（中村大尉事件）。

28（日）●黒竜会など右翼団体、大日本生産党を結成。

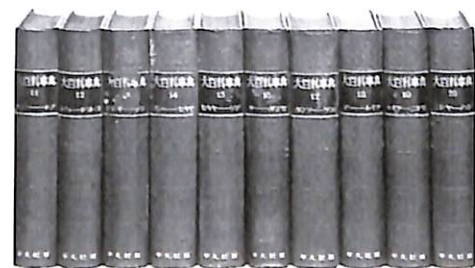
29（月）●内閣統計局発表。総人口九〇三九万五〇四一人、内地人口は六四四五万五人。

30（火）●森永製菓、宣伝機での全国訪問飛行を開始。

ベストセラー

“技術革新”が可能にした全二四巻の『大百科事典』

この年大いに売れたものに、平凡社の『大百科事典』がある。当時平凡社は、わずか五号で廃刊になった雑誌「平凡」によって経営危機におちいっていたが、この百科事典はまさに起死回生の企画だったわけだ。この企画が成功した背景には、大胆な“技術革新”と、執筆者や編集者の夜を徹しての労苦があった。技術革新とは、タイプによる印字とオフセット印刷で、ページ構成や項目ごとの校正を容易にしたことをさす。今ならさしずめDTP（デスク・トップ・パブリッシング）の導入といったところだ。それによって、それまでの常識をはるかに超える短期間で発刊にこぎつけ、さらに、全二四巻（最終的には二八巻）、四六倍判で各七百ページ余という“大事典”を、毎月一巻ずつ配本するという奇跡を現実のものとしたのだ。

なお、書名に用いられた「事典」は、「エンサイクロペディア」の訳語として、この企画の時に生まれた新語である。

◀「大百科事典」（各巻4円80銭） 平凡社提供

◀「江戸川乱歩全集」（各巻一円）

同じ平凡社から、人気作家・江戸川乱歩の全集も刊行された。この『江戸川乱歩全集』は、四六判レザー・クロス装で箱入りという豪華版だった。作者の江戸川乱歩自身が大乗り気で、編集のみならず、販売や宣伝方法にまで自分のアイディアを出したほど。結果は、当時の広告によれば、各巻一〇万部突破、相当のベストセラーだったわけだ。最終的には全一三巻となった。

さらにこの年、注目すべき本が刊行されている。梶井基次郎の生前唯一の単行本となった『檸檬』がそれで、梶井は翌昭和七年、三一歳という若さで亡くなっている。『檸檬』は、大正末期から昭和初期にかけて、結核に冒され、心を深く病んだ青年の、鋭い感性によって書かれた短編を集めた作品集。表題作のほか、分裂した自分、つまりドッペルゲンガーをテーマとした傑作「Kの昇天」や、「路上」「ある心の風景」のほか、“桜の樹の下には屍体が埋っている！”という有名な一節で始まる「桜の樹の下には」や、「愛撫」「闇の絵巻」など、全部で一八編がおさめられていた。

▲『檸檬』（1円50銭）

スターと名場面

弁士が熱演した傑作時代劇「瞼の母」と「雪の渡り鳥」

この年、日本で初めてのトーキー作品「マダムと女房」が公開されているが、まだ多くは無声映画で、映画館では弁士が熱演していた。独特の語りを駆使して雰囲気を盛り上げる弁士の人気もたいしたものだった。その無声映画の傑作のひとつ「瞼の母」（稲垣浩監督）もこの年の作品である。片岡千恵蔵主演で、原作は長谷川伸の名作。渡世人・番場の忠太郎が、五歳の時に別れた母をたずねて江戸へ出て、ついにさがしあてる物語だ。すぐには母親と名乗れなかった女と、なかなか素直になれない忠太郎の心情が涙を誘う。異父妹を演じた山田五十鈴の可憐な様子がういういしかった。

同じ長谷川伸原作の「鯉名の銀平・雪の渡り鳥」（宮田十三一監督）では、阪東妻三郎が渡世人を演じて、義理と恋との板挟みで悩み抜き、結局、義理を貫く物語で、やくざ映画の原型を見るような映画だった。この年はほかに、伊藤大輔監督、大河内傳次郎主演の「御誂治郎吉格子」が評判を呼んでいる。

またこの頃、洋画の影響力には絶大なものがあったが、マレーネ・ディートリッヒが「モロッコ」や「嘆きの天使」で登場。そのけだるい歌声と日本人にはないスタイルで、多くのファンを獲得している。

◀“白く流れる春雪に瞼の母と子が二人、手を取り合うて日が暮れる……”名調子の語りが入る「瞼の母」のラストシーン。右が片岡千恵蔵。

▲「嘆きの天使」で、美しい姿態をおしげもなく見せた、マレーネ・ディートリッヒ。

▼義理と恋との板挟みに悩みながらも、最後は恋敵を救った「鯉名の銀平・雪の渡り鳥」の阪東妻三郎。

マツダ映画社提供（3点とも）

モノ語り'31

昭和初期の“モダンライフ”を支えたラジオ「新ナショナル受信機」、コンパクトな「さくらカメラ」

◀**アコーディオンの元祖登場** 日本で初めてのアコーディオン、「手風琴（てふうきん）」が、この年、トンボハーモニカ製作所（現・トンボ楽器製作所）から発売。ディアトニック・アコーディオンと似ているが、音の配列は日本独自のもの。また、蛇腹を開く時と閉じる時で出る音が違う“押引違音（おういんいおん）”式。価格は9円と高価な楽器だった。 服部昌一郎

▲**コンパクトカメラが普及した** カメラが高級なビジュアル機器であった時代に、コンパクトカメラのはしりと言っていい「さくらカメラ」が、小西六本店（現・コニカ）から発売され、人気を呼んだ。ボックスタイプでベークライト製。10枚撮りのロールフィルムで画面サイズは4×5センチ。シャッタースピードは、開放とインスタントの二通りで、素人でも扱いやすかった。
日本カメラ博物館蔵／乙咩雅一

◀**電気掃除機の原型ここにあり** 国産では初めての電気掃除機「VC－A型」、愛称「ソーラー」が東京電気（現・東芝）から発売された。吸塵ブラシと柄の間にモーターを配置し、集塵バッグが取り付けられた。価格は600円と、当時の勤労者平均月収の8倍と目されたほど高価なもので、一般家庭には手の届かない高嶺の花の“電化製品”だった。

素人向け点眼方法の追求

「ロート目薬」が初めて登場したのは、明治42年（1909）。当時の眼科医の権威、井上博士の処方であることを強調していたが、一方、その点眼方法も大きな特色としてうたっていた。宣伝文は「素人が先の尖（とが）りたる点眼器を使用するは危険なり故にロート目薬は新案点眼器を添ふ」。先の丸いガラス製の棒に目薬をつけて、図のように垂らした。そのほか、消毒した布をつけるなど、当初からの安全と衛生への配慮が、昭和6年の自動点眼目薬の開発とヒットを生む原動力になっていた。

▲**ラジオ受信機はニューメディアだった** 大正14年に始まったラジオ放送は大好評。電器メーカーの松下電器製作所（現・松下電器産業）も受信機市場に参入しようと開発に取り組み、東京中央放送局（現・NHK）の受信機設計懸賞募集に応募、みごと1等に輝いた。これを前面に出して10月に発売したのが3球1号型「新ナショナル受信機」で、45円だった。

▶**風呂が簡単にたけるようになった** ガス風呂の性能と安全性を高めたガス風呂釜「はやわき釜」が、東京瓦斯（現・東京ガス）によって開発され、この年、実用新案特許を得て一般に普及していった。価格も大正年間のガス風呂に比べて半額近くになっており、一人用の釜で11円50銭だった。

◀**目薬の革命が起こった** この頃の目薬は、薬瓶からスポイトで吸い上げ、それを点眼するというものだった。これでは衛生上の問題も生じやすいので、山田安民薬房（現・ロート製薬）は直接点眼できる自動点眼器を開発、これを用いた画期的な目薬「ロート目薬」を発売した。価格は20銭、30銭、50銭で大ヒット商品となり、これによって同社は目薬市場で7割のシェアを獲得した。

ガス資料館蔵

人物クローズアップ

古賀政男（二六）

世相を映し「酒は泪か溜息か」爆発的ヒットで一躍スターに

「酒は泪か　溜息か　心のうさの　捨てどころ」

昭和六年九月二〇日、高橋掬太郎作詞、古賀政男（二六）作曲の「酒は泪か溜息か」がコロムビア・レコードから発売された。歌ったのは、東京音楽学校（現・東京芸大）の学生で、藤山一郎（二〇）という名のみレコードに記された覆面歌手だった。

第一次大戦後の不況が長引く中、昭和五年に始まった昭和恐慌は都会に失業者の群れを出現させ、また、米価の暴落と世界恐慌による生糸・繭価格の暴落は、農村を疲弊のどん底におとしいれた。こうした時代に、この歌の、出口のない暗い世相をそのまま反映したような歌詞と、哀愁切々とした短調のメロディー、それに、藤山の哀調をおびたつぶやくような歌唱法が人々の心をとらえて、レコードの発売数は一〇〇万枚を超え、爆発的なヒットとなった。古賀はこの時期のことを、次のように書いている。

「コロムビアの仕事は好調なスタートを切った。おまけに覆面歌手なので会社は藤山君の名を宣伝できない。そこで私の写真を出して宣伝する。おかげで作曲家の私の方が一躍スターとしてクローズ・アップされていった」（『私の履歴書』）

古賀政男は、明治三七年一一月一八日、福岡県三潴郡田口村（現・大川市）に、八人兄弟の五男として生まれた。古賀の生い立ちは不遇だった。五歳の時、行商を営む父が死亡、母のセツは賃仕事で子どもたちを養いつつ、家計を支えたが、それにも限界があった。極貧の中、大正元年、母、姉、弟を含む一家は、長兄をたよって朝鮮の仁川に渡る。快適とは言えない暮らしの中で、大正一一年に商業学校を卒業。日本に戻った古賀は翌年、上京して明治大学に入学、苦学しながらマンドリン倶楽部の結成に参加する。

作曲家・古賀政男のデビュー曲となった「影を慕ひて」が世に出るきっかけは、昭和四年六月の、明大マンドリン倶楽部の演奏会だった。出演した人気歌手の佐藤千夜子が、この歌をレコード化したのが縁で、コロムビアの文芸部長・米山正が注目、古賀は作曲家としてコロムビアに入社することになった。六年三月のことである。

作曲家としての古賀は、和声法にこだわらない斬新な曲想もさることながら、時代をとらえる感覚がずばぬけていて、その時々の社会や人々の心を、メロディーに置き換えていった。「酒は泪か溜息か」に続き、この年の一二月に発売されてヒットした「丘を越えて」は、満州事変による一時的な軍需景気を反映してか、長調の明るい曲になっている。

▲昭和39年、コロムビアのスタジオで美空ひばり「柔」の吹き込みに立ち合う。

古賀の元養子で作曲家の山本丈晴氏は、そうした古賀を、こう語る。

「音楽というのは、はっとする心、すなわち、素直に感動する心であると。そして、日常生活の中からそれを発見し、その感覚を常に養わなければいけないと、いつも言い続けていました」

戦後まもない二三年には、「湯の町エレジー」が空前の大ヒット。その後続々とヒット曲を生みながら、美空ひばりをはじめとする多くの歌手を育て上げた。

五三年七月二五日、急性心不全のため永眠。総作曲数は四〇〇〇曲を超える。

古賀政男音楽博物館提供（2枚とも）

▲「酒は泪か溜息か」発売の頃、代々木上原の自宅で曲想を練る古賀政男。曲も歌唱法も画期的だったこの作品は、マンネリにおちいっていた歌謡界に新風を送りこんだ。

決定的瞬間

「極小」をのぞき「極大」を観察 現代科学に偉大な貢献！ 電子顕微鏡と電波望遠鏡誕生

現代科学が急速な進歩をとげたのは、電子顕微鏡と電波望遠鏡の発明に負うところが大きい。「小さなものを拡大して見る」、それは一枚のガラスレンズから始まっている。レンズの作用については、古くギリシャの天文学者プトレマイオスによって指摘されていた。中世イタリアでは、レンズを使用してメガネや望遠鏡が作られ、一六〇九年にはガリレオ・ガリレイが望遠鏡で天体を観測、太陽や月、星の位置を測定した。

しかし、レンズと光によってものを拡大して見るというのは、レンズをいかに研磨しても最大二〇〇〇倍までであることが理論的にわかってきた。この限界をどのように突破するか。これが二〇世紀の科学者に与えられたテーマであった。

光より波長の短いものを使い、その像を固定する。そのためには電子線（細い波動を持つ）を対象にあてるのが最適だが、レンズがガラスでは像は結べない。

一九二六年、ドイツ・イェーナ大学のブッシュはこの問題に重要な理論を提起した。「軸対称性の磁場は電子線に対してレンズの働きをする」というものであった。この画期的な理論が公表されてからも、電子顕微鏡の歩みは鈍かった。高電圧の電子線を試料（観察する対象）にあてると、「熱を発して使いものにならないだろう」という疑念があったからだ。

ところが一九三一年、ベルリン工科大学高電圧研究室の大学院生エルンスト・ルスカ（三五）はクノル主任の指導を受けながら、試料にぶつかった電子線は熱を持たず、凹凸に従って拡散することをつきとめた。この透過する電子線の濃淡が画像となるのだ。ルスカはこうして、二個の電子レンズを持つ電子顕微鏡を製作することに成功。現在では八〇万倍もの倍率の走査型電子顕微鏡があるが、その第一歩はわずか倍率一二倍であった。

この時点でルスカは、電子顕微鏡がウイルスの研究やシリコン・チップの回路などに利用されることを想定していただろうか。電子顕微鏡の登場は、「今世紀最大の発明のひとつ」と高く評価され、発明から五五年後、一九八六年になってノーベル賞を受賞した。当時は、この発明にどれだけの価値があるか、科学者たちにもよくわかっていなかったからだ。

同じ年の一九三一年、アメリカのベル研究所の技師カール・ジャンスキー（二六）は、無線のさまたげとなる空電現象（雷にともなう電波現象）を調べるため、円形のレールの上を移動して方向変換ができるアンテナを作った。そしてこのアンテナがとらえた電波の中に、明らかに地球外に原因があると思われる電波を発見したのだ。この発見は、新しい電波天文学の開幕を告げる重要なものであった。しかし、電波で宇宙の構造を知るという技術に慣れない天文学者たちには、そっけなく受け取られただけだった。ところが一九四〇年に、通信工学者ロバート・リーバーが、パラボラ型アンテナを作って性能を高め、以来、電波天文学は飛躍的な発展をとげることになる。

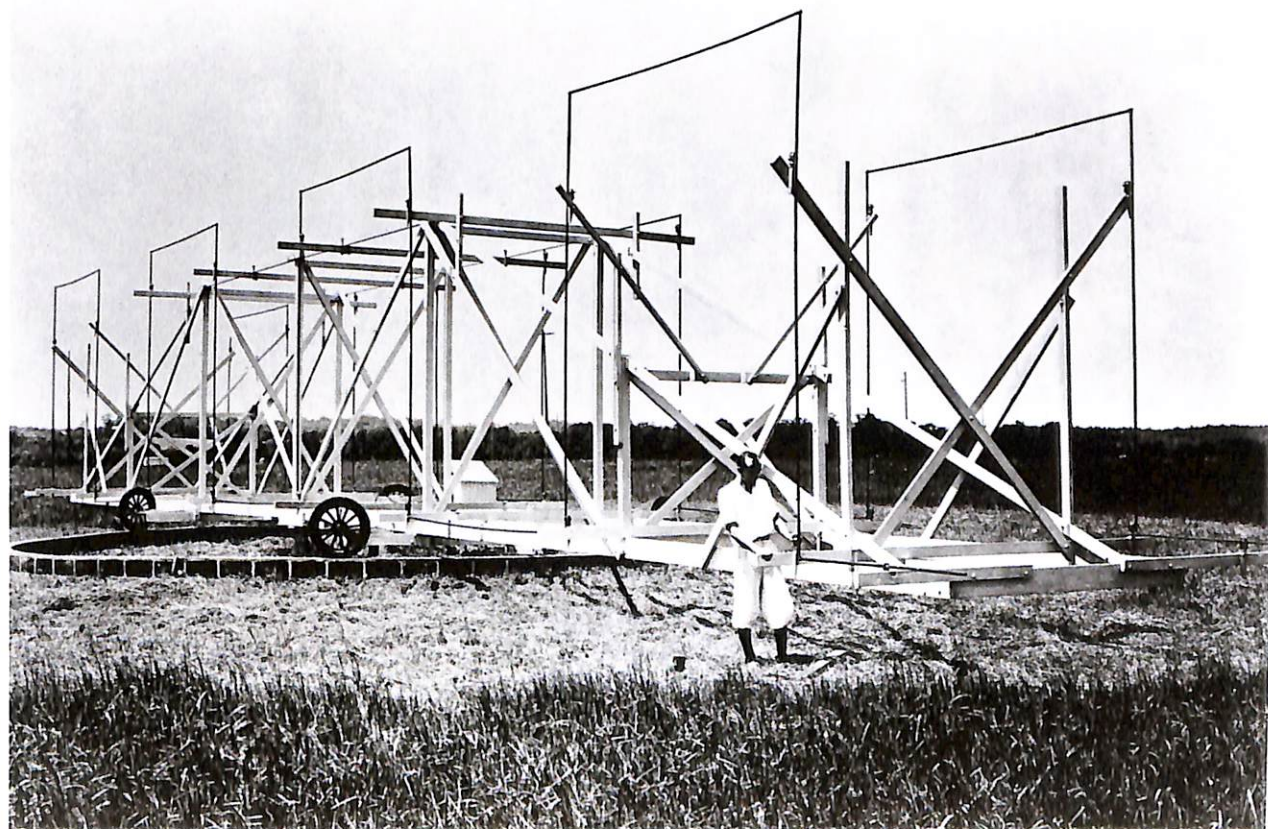
一九三一年は、「極小」をのぞき、「極大」を観察する、現代科学にとって二つの偉大な発明が、ひっそりと誕生した記念すべき年であった。

◀磁場レンズを利用して画像を得るため、検討を続けるクノル（左）とルスカ（右）。

bpk／デジタルハウス

▼ジャンスキーが制作した電波望遠鏡のアンテナ。現在、アメリカ国立電波天文台が保存。

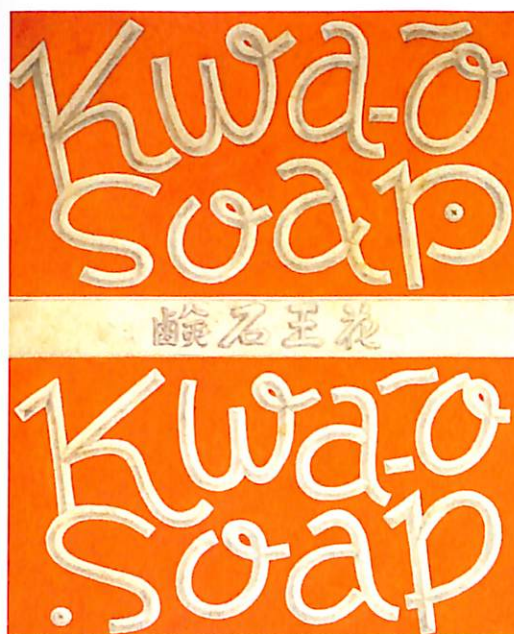
ユニフォトプレス

CORBIS-BETTMANN　PPS

▲宇宙の電波を初めてとらえたカール・ジャンスキー。

美の出会い

原弘、木村伊兵衛、金丸重嶺 才能を結集した企業戦略で花王〝全ページ〟広告の快挙

Kwa-O Soap
花王石鹸
Kwa-O Soap

◀「新装花王」石鹸のパッケージ・デザインのコンペで、最年少のデザイナー原弘の作品が採用された。
花王提供(4点とも)

昭和六年三月一日、花王石鹸株式会社長瀬商会は、経営の近代化をはかる中で、「新装花王」石鹸の発売を開始した。当日の「東京朝日」「大阪毎日」「大阪朝日」「国民」「時事」などの新聞各紙朝刊には、一ページ大の「新装花王の日」と銘うった写真広告を掲載。写真家の金丸重嶺（三〇）が撮影した東京工場出荷の際の写真をバックに、赤刷りの実物大商品を配した斬新なもので、全ページの写真広告は業界初の快挙だった。ひき続き、銀座・松坂屋や日本橋・白木屋などおもだったデパートにマネキン・ガールを派遣してゴム風船を配ったり、市内の繁華街などでは高々とアドバルーンを上げるなど、大々的な宣伝活動を展開した。

昭和四年、欧米視察から帰った花王石鹸の二代目社長・長瀬富郎は、石鹸の大量生産に向けて品質改良に取り組んだ。まず、社長ほか、重役や技師、広告部の太田英茂（三八）らのメンバーからなる「研究の研究会」と名づけた定例会議を設け、石鹸製造工程の研究や経営の近代化をはかるとともに、石鹸の色や形などについても議論を重ねた。

ここで注目したいのは、会社の方針を決定する重要会議に広告部から太田が参加していることである。宣伝広告の重要性をいち早く痛感していた社長の長瀬は、太田の才能を看破し、文案家として広告部に迎え入れていた。東大新人会出身のマルキストでありながら、本郷教会の海老名弾正のもとで伝道師となった太田は、それまでは、海老名の発行する雑誌「新人」の編集を担当していた。

花王の広告部に入った太田は、石川県立工業学校で美術教師をしていた飛鳥哲雄、飛鳥の後輩の奥田正徳らを迎え入れデザイン制作部門を充実させた。「新装花王」石鹸のパッケージ・デザインはコンペ形式をとることにした。出品者として、舞台美術などで活躍する村山知義、吉田謙吉、「三越の非水か、非水の三越か」と言われたグラフィック・デザイナーの杉浦非水、東京府立工芸学校の教員としてデザインを教えていた原弘（二七）らに依頼、社内からは奥田に出品させた。このコンペで採用されたのは、最年少の原弘のデザインで、これは以後、昭和を通じて花王のパッケージとして最も親しまれたデザインである。

一方、新聞広告にも積極的に乗り出した太田は、新鋭のカメラマンを嘱託として迎えた。東京・日暮里で写真館を開業するかたわら、ライカで下町のスナップを撮り始めていた木村伊兵衛（二九）や、商業写真の草分け期に視覚的効果をねらってドイツ新興写真の技術を取り入れていた金丸重嶺らが集まってきたのである。

◀下町のありふれた風景をスナップした木村伊兵衛の写真が、広告のバックとして使われている。

発売当日、新聞各紙に掲載された金丸の写真に続き、洗濯物を干したごく日常的な下町の風景を撮った木村の写真をバックにした広告が出る。商品そのものをアピールしたものや、微笑する女性の顔を使った広告が多かった当時、読者の心理的な感覚にアピールした木村の写真は、広告界では「広告写真というものの認識を根本的に改めさせた」画期的な作品と言われている。

こうした花王の一連の広告宣伝は、広告界の注目するところとなり、花王は企業広告の花形的存在となる。

後に花王を退いた太田は、共同広告事務所を設立。少年図案家を募集した際、一五〇人にのぼる応募者を面接し、その中から亀倉雄策ただ一人を選んだ。亀倉は戦後のグラフィックデザイン界をリードする逸材である。この太田の慧眼が、花王に多彩な人材を集めることになった。日本に報道写真を普及させようと、「日本工房」を結成し、海外に日本を紹介する雑誌「NIPPON」を発行した名取洋之助の精神的な拠り所となったのも、この太田である。戦前から戦中にかけ、多くの写真家やデザイナーを育て、彼らを陰で支えた太田は、「宣伝界の神様」と呼ばれている。

▶昭和六年一月、東京・日本橋馬喰町に完成した花王ビル。「新装花王」にふさわしいモダンな建物。

愈本日
新装花王の日
純粋度 99.4%
正價一個十銭

▲「新装花王」石鹸発売当日の全ページ広告。太田英茂がアート・ディレクター、デザイナーは飛鳥哲雄。コピーの配列などにも、広告独自の美とリズム、迫力がうかがえる。

消防博物館

東京・新宿区

関東大震災の直後に輸入された"クラシック・カー"的消防自動車の迫力

桑原茂夫

▲関東大震災直後に、アメリカのアーレンス・フォックス社から輸入され、終戦直後まで走りまわっていた消防自動車。

消防自動車というのは、重い装備と高い機能性という、相反する要素を徹底的に追求したマシーンであり、その真っ赤に塗られたボディとともに、人の目を引きつけずにおかないところがある。この「消防博物館」地下一階のフロアには、大きな消防自動車が数台、でんとかまえているが、身近でじっくり見る機会などめったにないから、その迫力にあらためて驚かされてしまう。

中には、クラシック・カーの優雅さを併せ持つ消防自動車もある。「アーレンス-フォックスポンプ車」と「スタッツポンプ車」で、その名から推測できるようにそれぞれ輸入車である。それで、いつ輸入されたのかというと、これが大正一三年（一九二四）、つまり関東大震災の翌年のことなのである。"防災"はいつも災害が起こってから叫ばれ、具体的な対策が講じられる。その生き証人のようなものがこれらの輸入車だ。輸入後も戦後まで走りまわり、活躍したそうだ。

▲博物館玄関口には、明治時代を象徴する馬牽き蒸気ポンプ車と、現代の消防活動を象徴するヘリコプターがある。

さらにこの地下のフロアから地上に向けて梯子を伸ばしている梯子車が一台。これも関東大震災直後の大正一四年にドイツから輸入されたものだが、その雄姿は、梯子車こそが、消防自動車の粋を集めたエース的存在であることを、主張しているようである。

そもそも梯子自体が、消防活動を象徴すると言っていいほど重要な意味を持つ道具だったのだ。このことは、たとえば、東京の町で正月になると行われている、出初式を思い浮かべても理解できるだろう。そこでは、鳶職の男たちが、木製の梯子を使った曲芸を見せてくれる。鳶の仲間と鳶口で支えられた梯子をするすると上り、てっぺんで逆立ちしたり、いろいろな姿勢でバランスをとってみせ、見物人に感嘆の声を上げさせるのだ。

▲大正14年にドイツから輸入され、昭和初期にその雄姿を見せた、近代的梯子車。梯子を伸ばして展示されている。

ここで話は江戸時代にさかのぼる。町方の火消しは、普段は土木工事などに従事している鳶職の男たちがつとめた。いざ火の手が上がったとなれば、刺子の半纏を羽織り、梯子や鳶口を手にして組ごとに現場に駆けつけた。先陣を切る男がしかるべき家屋の屋根に上り、組のまといを掲げ、この火消しに対する組の責任を明らかにしたうえで、梯子や鳶口をフルに活用して家を壊し火の道を断つ。延焼を防ぐのである。

出初式の梯子乗りも、江戸時代の火消しの勇気と技術を象徴的に見せる儀式であったのだ。というわけで、この博物館でも、当時のまといや鳶口などはもちろん、"破壊消火"と称される火消しの様子を示すジオラマ模型や、消火活動の犠牲になった男の、焼け残った半纏などを見ることができるのである。

そう、消防というのは、実は命がけの仕事である。時代とともに方法は大きく変わったけれど、その仕事に向かう思いは変わりようがない。刺子の半纏と、宇宙服のような消防士の装備がダブって見える、そんな博物館だった。

●消防博物館
東京都新宿区四谷三－一〇
☎〇三－三三五三－九一一九
地下鉄丸ノ内線四谷三丁目下車、徒歩一分
開館時間＝九時三〇分～一七時
休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入館料＝無料

▲江戸時代にさかんに行われていた、町方の火消しによる"破壊消火"活動の様子を再現させた模型。

不況にあえぎ"欠食児童"が問題となった時代に 子どもたち自身が育てた2大ヒーロー「のらくろ」「黄金バット」登場！

▲昭和10年頃、自宅でのらくろ商品に囲まれた田河水泡。のらくろ鉛筆、弁当箱、ハーモニカなど、いわゆるキャラクター商品が続々と作られ販売された。

昭和六年、子どもたちは、野良犬の兵隊が活躍するマンガ「のらくろ」の虜になった。一方、街頭の紙芝居では、正義の味方「黄金バット」が話題を呼ぶ。不況と凶作で"欠食児童"が問題となった時代だったが、対照的なキャラクターを持つ二人のヒーローは子どもたちの圧倒的な支持を受け、その後も長きにわたって愛される作品となった。

作者自身を投影した みなしごの「のらくろ」

昭和五年秋、講談社「少年倶楽部」の編集者が東京・本郷の田河水泡（三一）宅を訪ね、新しい連載マンガを依頼した。田河は、前々年同誌に連載した「目玉のチビちゃん」が好評で一躍人気マンガ家となり、この年は「少女倶楽部」に「ポプ子さん」を描いていた。

「何か子どもの喜びそうな話にしよう。子どもは犬が好きだから、犬に子どもの大好きな兵隊ごっこをさせようか」

田河と編集者のこんなやりとりから、新連載の構想がまとまった。こうして、野良犬の軍隊生活をユーモラスに描いたマンガ「のらくろ」の連載が、昭和六年の「少年倶楽部」新年号からスタートしたのである。

主人公は、みなしごの野良犬くろ。志して軍隊に入るが、おっちょこちょいで失敗続き。上官からは叱られてばかりだが、楽天的な性格でくじけることはない。時に思いもかけぬ方法で大手柄をたてることも……。子どもたちはこののらくろを夢中になって応援した。

▶「のらくろ二等卒」連載第一回。やせた黒い小犬が猛犬連隊の歩哨の前に立ち、入隊を志願するところから始まった。

◀「少年倶楽部」昭和六年新年号。

短期連載のはずだった「のらくろ」は、のらくろが上等兵に昇進したとたん、読者から激励のファンレターが殺到し、約一一年にわたる長寿連載を記録して、最後は少佐にまで昇進した。のらくろが昇進するたびに子どもたちは歓喜し、ファンレターはひきもきらなかった。身寄りがないので外出日は一人ぼっちと描けば、「ぼくの家に遊びにおいで」という手紙が何通も届いたという。

田河は「自分で雑誌を買えず、人から借りて引け目を感じている子どもたちに、明るさと夢を与えるものを描こうと思った。そのために、みじめな境遇にいる、チビで間抜けな犬を出すことにした」と語っている。のらくろ人気は、こうした子どもに向けた田河の優しさが伝わったためではないか。

と同時に、のらくろは田河自身でもあったと言うのは、大阪国際女子大学の竹内オサム教授だ。

「田河は生後一年で母親と死別し伯母に預けられ、その後、軍隊に入隊した経験を持っています。社会のアウトサイダーでドジばかり踏むのらくろは、田河自身の孤独な過去や体験が反映されている。『のらくろ』は軍の干渉で次第に体制色が強まり、後に『軍国主義を宣伝した国策マンガ』との批判も出たが、やはり作品そのものが魅力的だったから時代を越えて読み継がれたのでしょう」

昭和一六年、「のらくろ」は戦時体制のもと、紙節約の対象とされ突然休載となるが、昭和三三年、月刊誌「丸」に場を移して連載を再開する。また復刻版、全集、さらには文庫版が昭和四〇年代から五〇年代にかけて相次いで出版され、長きにわたって多くのファンを魅了し続けた。

三〇種の海賊版が横行 「黄金バット」の異常人気

一方、紙芝居で子どもたちの人気をさらったのは「黄金バット」だった。作者は当時、工芸学校染色図案科にかよっていた一八歳の永松武雄。永松は学業のかたわら製麺所につとめていたが、昭和五年、新聞の三行広告で見つけた紙芝居製作所の求人に応募し、八〇人中二人採用の〝難関〟を突破して紙芝居画家となる。

「黄金バット」の制作は昭和五年秋から始まった。原案を担当したのは作家で紙芝居の貸し出し業も兼ねていた鈴木一郎。黄金バットのキャラクターは、映画「オペラの怪人」や「ファウスト」のメフィストフェレスの出現場面などをベースに考案されたが、永松は鈴木の原案を、作者もびっくりするほどの出来映えに仕立て上げてみせた。つば広のハットと黄金のガイコツのマスクをかぶり、赤いマントをひるがえして空を飛ぶ黄金バットは、世界征服をたくらむ悪の怪人・ナゾーを倒すために活躍する正義の味方である。

黄金バットの色彩感覚は、それまでの紙芝居の常識を一変させた。染色の知識と経験を活かした大胆な色づかいと美麗な画風。当時としては斬新なSFスペクタクル風のストーリー。子どもたちは興奮し、新しいヒーローに熱狂した。「汚い手で駄菓子を扱うので不衛生だ」「刺激的な場面が子どもに悪影響を与える」などというおとなの声も、まったく通じなかった。最盛期には二〇から三〇種もの海賊版すら横行したという。

永松はその後ネクタイ会社に就職し、絵筆を捨てる。二代目作家となったのは、当時一四歳だった加太こうじ（現・評論家）。すぐに売れっ子作家となり、コーヒー一杯が一〇銭の時代に、月収一〇〇円以上のギャラがころがりこんできた。「黄金バット」は戦後、再び紙芝居として復活したのを皮切りに、単行本、少年誌の連載、昭和四三年からはテレビアニメと、何度も蘇った。リメーク版の作者・一峰大二はこう振り返る。

「私も紙芝居の『黄金バット』を楽しみにしていた子どもの一人でした。『黄金バット』は、空を自由に飛べる万能のスーパーマン。一方、ドジなのらくろは、等身大の身近な存在でしたね」

のらくろと黄金バットは、「欠食児童」が問題になった時代の子どもたちに、夢と希望を与えた対照的なスターだった。

▲連続冒険空想科学大活劇と銘うたれた「黄金バット」の扉絵。日本の篠原博士が発明した、恐るべき破壊力を持つ原子光線をめぐる物語。 加太こうじ提供

▶紙芝居屋は、昭和六、七年頃から急成長したが、戦時下に衰退。戦後はテレビの普及で再び激減。

フォト＋日録で再現する365日

毎日新聞社

▶万宝山事件で暴動（7月4日）長春市北方の万宝山で朝鮮人と中国人が衝突。事件の誇大報道のため、平壌（ピョンヤン）の中国人街が襲われるなど（写真）、朝鮮全土で中国人109人が殺害された。

▼前畑ら御前水泳へ（7月2日）皇后の御前水泳を2日後に控え、東京・芝プールで女子選手が練習、記念撮影をした。写真左から二人目の前畑秀子（17）は、翌年の五輪優勝を期待されていた。

毎日新聞社

▲スープに長い列（7月）1929年10月、ニューヨーク証券取引所での株価大暴落で、米国の失業者はこの年1000万人を超えた。写真はスープの配給を受ける炭鉱労働者。

▼恩給求め「絶食祈願」（7月20日）一時金だけだった廃兵（11月に傷痍軍人と改称）代表40人が、明治神宮で3日間決行。23日、若槻首相との会見で「考慮する」を約束させた。

毎日新聞社

▼空中給油に初の成功（7月23日）埼玉県所沢の陸軍飛行学校上空300メートルで、偵察機2機による日本初の実験に成功。20分間に20メートルのパイプで379リットルを給油した。

野沢正提供

昭和6年7月

1（水）●米「ウィニー・メイ号」が世界一周早回りで八日と一五時間五一分の新記録。
●改正米穀法施行。米価安定のため政府買入れ、売渡しの際の最高・最低価格を決める。
2（木）●中国・万宝山で朝鮮人入植地の水利めぐり、朝鮮人農民と中国官憲が衝突（万宝山事件）。
3（金）●警視庁、カフェーのチップ強要取締りを指示。
4（土）●朝鮮全土で万宝山事件の報復に中国人襲撃。
5（日）●無産三党合同し全国労農大衆党結成。
6（月）●沖縄本島のデング熱患者が一万人突破と判明。
7（火）●国民政府、在朝中国人保護を日本政府に要求。
8（水）●「ラジオ体操の歌」入選作放送。一位・小川孝敏。
9（木）●商工省の専門委員会、一~二トン積みトラックの年間生産目標を五〇〇〇台と決定。
10（金）●東京府初の女性校長・木内キヤウが就任。
11（土）●東京地裁、第二次共産党事件の公判を公開。
12（日）●全国統一組織、日本卓球会が発足。
13（月）●警視庁など、ひとのみち教団（現・PL教団）本部を捜索し、開祖・御木徳一らを取り調べ。
●独のダナト銀行が破産。欧州金融恐慌へ。
14（火）●北九州防空演習開始。四県二三〇万人が参加。
15（水）●五月の失業者四〇万一四一五人と内務省推定（実数は二~三倍と新聞解説）。
16（木）●エチオピア、初の憲法発布。奴隷制廃止など。
17（金）●山田耕筰、レニングラード・フィルを指揮。
18（土）●鎌倉・葉山両署、水着での街の散歩を禁止。
19（日）●上海市商会、日貨排斥運動を開始。
20（月）●東京正米市場、作柄予想が天候不順で「不作」のため、米価急騰、新高値を更新。
21（火）●新二十円札発行。最後の兌換紙幣。
22（水）●恩給求める廃兵代表、病人続出で「絶食」中止。
23（木）●所沢の陸軍飛行学校上空で空中給油に成功。
24（金）●大審院、「夫の不品行」で家出した妻の日用品には夫の管理権はないと新判例を出す。
25（土）●児童虐待防止法案を決定。曲芸など出演禁止。
26（日）●千葉県浪花村の人力車夫、追い越した自動車に怒って追いかけ、心臓麻痺死。
27（月）●中国国民政府、排日運動取締令を発布。
28（火）●東京婦人子供服製造卸商組合などが、既製品の全国規格と標準寸法を協定。
29（水）●東京府、野球入場料に一割課税と決定。
30（木）●東京帝大助教授・三島徳七、MK永久磁石鋼の発明を出願（世界最高の画期的磁石）。
31（金）●無登録外務員の保険勧誘厳禁の取締規則公布。

平凡社提供

証言・あの日この日
南方熊楠（64）

9月24日（木）　〈『大毎』紙の号外来たりあり、／奉天で椿事出来交戦状態となりしとのこと。／どうやら国交断絶となりたる様子に察せられ候。これがいよいよ開戦になりたらんには、／貴下御自身も兵役に就かれることもあるべく、如何のことやと案じ煩いおり候〉（南方熊楠、『南方熊楠全集・別巻一』）

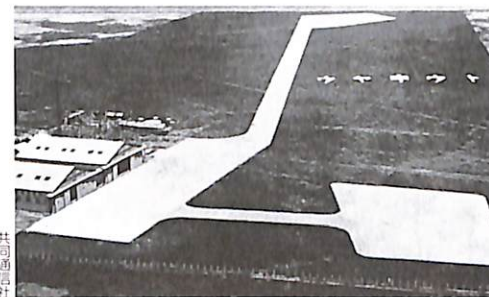
柳田国男とともに「日本民族学」の産みの親の一人である南方熊楠は、当時、故郷・和歌山県の田辺で「粘菌」の研究に熱中していた。かたわら『南方随筆』を出版準備中だった。しかし突然飛びこんできたのは関東軍参謀・石原莞爾らによって引き起こされた「満州事変」勃発のニュースだった。南方熊楠は「号外」を手に、事態の深刻さを直感する。書簡の相手、岡茂雄は、岡書院店主で、『南方随筆』はここから出版された。（山崎行太郎）

土橋武夫／山中理香提供

▲国産トーキー第1号「マダムと女房」封切（8月1日）五所平之助監督、田中絹代・渡辺篤主演の松竹映画。写真は東京・田園調布での野外ロケ。バスは録音機を積んでいた。

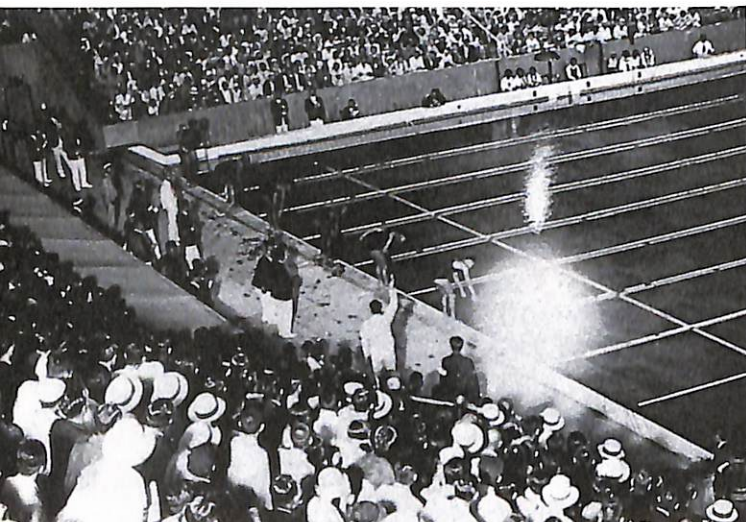
共同通信社

◀リンドバーグ夫妻来日（8月26日）新航路開拓のため北太平洋を島伝いに29日間で横断、大歓迎の中、霞ケ浦へ着水。夫妻は京都・大阪など各地を訪問した（写真は靖国神社で）。

共同通信社

▲東京飛行場オープン（8月25日）東京・下羽田海岸に完成、日本初の国際空港となった。広さ52万8000平方メートル、600メートル滑走路2本、総工費240万円。午前7時30分、大連向け1番機が飛び立った。

▼初の日米水上競技大会（8月7日）6月19日に竣工した東京・神宮プールで行われ、800メートル自由型で横山、女子50メートル自由型で松沢が優勝するなど米国に圧勝。水泳ニッポンを印象づけた。

共同通信社

▼台湾の嘉義農林準優勝（8月21日）甲子園球場での中等学校野球大会決勝は、初出場対決となり、嘉義のエース呉明捷（19、右端）の力投およばず、巧打の中京商に4対0で破れた。

朝日新聞社

昭和6年8月

1（土）●日本初の本格トーキー「マダムと女房」封切。
●東京少年審判所で保護中の少年に性犯罪防止を名目に去勢手術を施行し問題化、と新聞に。
2（日）●札幌で第一回全道アイヌ青年大会開催。
3（月）●安達内相、推定で五〇人に一人が結核と発表。
4（火）●南次郎陸相、軍縮反対と満蒙問題の積極的解決を訓示。軍の外交関与と問題化。
●田畑売買価格が一二年で四一％下落と新聞に。
5（水）●学制改革案大綱を発表。高等師範・高等学校の廃止、小学校を国民学校と改称など。
6（木）●労働争議件数急増、前年比一・五倍と新聞に。
7（金）●第一回日米対抗水上競技大会、神宮で開催。
8（土）●ダット自動車製造（現・日産）、新小型四輪車の製造開始（7年3月、ダットサンと命名）。
9（日）●宮古島で風速六五メートル。民家七〇〇〇戸が倒壊。
10（月）●帝国飛行協会、国産機での太平洋無着陸横断飛行の成功者に一〇万円の賞金と発表。
11（火）●内務省、自動車の制限速度を時速一六マイル（約二六キロ）から三〇マイル（約四八キロ）に改定。
12（水）●農林省、農漁村救済に一億円の事業と決定。
13（木）●内務省、青年訓練所を廃し補習学校創設決定。
14（金）●揚子江の氾濫で漢口の日本租界が完全に浸水（18日洪水の罹災民三〇〇〇万人と判明）。
15（土）●経営不振の伊那合同銀行頭取、縊死。
16（日）●青森で毒蛾異常発生、一〇万人被害と新聞に。
17（月）●大阪市内で各種伝染病患者急増、七五八人に。
18（火）●青島で中国人二〇〇〇人が国粋会本部襲撃。
19（水）●日本GM従業員、週五日勤務に反対しスト。
20（木）●東京・銀座など三四ヵ所に自動信号機設置。
21（金）●全国中等学校野球大会で、中京商が台湾の嘉義農林を破り初出場で優勝。
22（土）●市内の浮浪者は二五〇〇人と東京市調査。
23（日）●若松港沖仲仕一五〇〇人、救済金問題でスト。
24（月）●英労働党内閣辞任（25日保守・自由など三党のマクドナルド挙国一致内閣成立）。
25（火）●羽田に国営国際飛行場、東京飛行場が開港。
26（水）●リンドバーグ夫妻機、霞ケ浦に到着。
27（木）●アムステルダムで国際反戦大会開催。
28（金）●文部省など秀才児師範学校給費制廃止を決定。
29（土）●日独連絡飛行の独エッツドルフ機が羽田到着。
30（日）●牧野正蔵、東西中学対抗競技会八〇〇メートル自由型で、一〇分一六秒六の短水路世界新記録。
31（月）●東京の中学退学者一万二千余人、一校平均六二人、不況の影響で急増、と新聞に。

▲嵐寛寿郎プロ第1回作品(9月)「鞍馬天狗」シリーズで人気絶頂の嵐寛寿郎(27、右)が、専属監督に山中貞雄らを擁して再出発。第1作の「戸並長八郎」の撮影に入った。写真左は友情出演の鈴木澄子。

▲西埼玉地震(9月21日)関東一帯をM7.0の地震が襲い、死者16人、全半壊家屋492戸の被害を出した。特に埼玉県北部の深谷、西部の大橋(写真)の被害が大きかった。

▶ハイフェッツ夫妻来日(9月10日)関東大震災直後に来日し、義捐演奏会を開いた米バイオリニストは、この日東京・永田町の花柳寿美宅を訪れ、「茶」「傘」の舞を見学した。

◀英、金本位制離脱(9月21日)世界恐慌が進む中、イギリスも離脱。この報を受けた東京株式取引所(写真)は日本の離脱も近いとパニック状態となり、立ち会いは停止された。

▶上越線の清水トンネル開通(9月1日)群馬県土合—新潟県土樽間の9702メートルを結び、当時では世界最長のトンネル。上越線が全通したことで、信越線経由の上野—新潟間が4時間も短縮された。写真は上野発の1番列車。

▶世界初、潜水艦から飛行機射出(9月)英国は海軍大演習の際、水上機の射出実験を実施。日本でも飛行機搭載潜水艦の開発が進み、日米開戦後の17年9月、「伊25号」発進の小型水上偵察機が米本土を空襲した。

昭和6年9月

1(火)●上越線の清水トンネル開通。全長九七〇二㍍。
2(水)●東京中央局、第二放送で初の学校放送を行う。
3(木)●大丸百貨店、女子店員を第一回服飾研究生としてパリに派遣。
4(金)●東京で「赤化教員」検挙累計四〇人、七人退職。
5(土)●横浜港で特務艦が爆発。飛行機三機が大破。
6(日)●国際無産青年デー。反戦叫ぶ一三〇人検挙。
7(月)●群馬県伊勢崎署に検束された小林多喜二・中野重治らを奪還しようと五九人が署内に突入。
8(火)●清酒造石高が前年比一六㌫の減少、と新聞に。
9(水)●行政整理準備委員会、行財政整理案を決定。拓務省廃止、農林省、商工省の合併など。
10(木)●対外同志会など、満蒙問題実力行使を決議。
11(金)●帝大航空研が開発した飛行船の水素ガス爆発防止法に、仏政府が権利買収を正式申しこみ。
12(土)●パリ—東京間無着陸飛行の仏機がソ連で墜落。
13(日)●警視庁が流し円タクの弊害一掃のため銀座など三ヵ所に駐車場を設置、と新聞に。
14(月)●東京市電気事業調査会、極貧家庭一万五〇〇〇戸の電灯料金半額(五〇銭)の値下げを決定。
15(火)●東京の地下鉄、一〇銭均一を二㌔で五銭に。
16(水)●関東軍、奉天(瀋陽)駐屯部隊を非常召集。
17(木)●全国酪農大会、ネッスル社北海道進出に反対。
18(金)●「満州事変」勃発。関東軍、奉天郊外の柳条湖で満鉄線路を爆破し、総攻撃を開始。
19(土)●「満州事変」第一報、初の臨時ニュースで放送。
●関東軍、奉天占領(20日市長に土肥原大佐)。
●林奉天総領事、満鉄爆破は軍の計画と報告。
●「満州事変」で株式総崩れ、国債も一斉に暴落。
20(日)●古賀政男のレコード「酒は泪か溜息か」発売。
21(月)●英、金本位制を停止。株式・商品相場が暴落。
●西埼玉地震。一六人死亡、二〇六戸全壊。
22(火)●関東軍、溥儀を擁立し親日政権を樹立するなど「満蒙問題解決策案」を決定。
23(水)●上海抗日救国大会、満州武力奪回などを決議。
24(木)●政府、「満州事変」不拡大方針の第一次声明。
●三井物産、広東政府との武器供給契約を解除。
25(金)●東京市調査、職業婦人の七八㌫が一六〜二五歳、給与平均は三〇円七五銭。
26(土)●愛国婦人会、慰問袋の募集運動を全国に通達。
27(日)●関東以西に豪雨被害。東京で七万戸浸水。
28(月)●放送協会、聴取者激増で七〇銭値下げを決定。
29(火)●全国労農大衆党、対中出兵反対闘争委を結成。
30(水)●武藤山治、政府に金本位制停止の公開状提出。

WWP

▲アル・カポネ(32)に厳しい判決(10月24日)「暗黒街の帝王」に脱税と法廷侮辱罪で懲役11年、罰金5万ドルの判決。脱税としては予想外の厳しさに、足取りも重かった。

▲築地本願寺起工式(10月21日)伊東忠太の設計による、国内でも珍しい鉄筋コンクリート造りのインド風寺院建築で、総工費は150万円。9年6月に竣工、一躍東京の新名所になった。

CORBIS-BETTMANN / PPS

▶世界最長のジョージ・ワシントン橋完成(10月24日)ニューヨーク市のハドソン川に架かる吊り橋で、長さは1067メートル。2階建てだが、この時は上部の車道だけが開通した。

▲日本橋・白木屋開店(10月1日)昭和4年からの拡張工事を終え、「東洋一の百貨店」と称してこの日開店セール。2基の60人乗り大エレベーター(写真)が、呼びものだった。

▲大阪・松島遊郭の娼妓がハンスト(10月15日)待遇改善を要求し、13人がハンストを決行。無産婦人同盟が経営者との交渉を斡旋し、20日、娼妓に有利な条件で解決した。

▶福岡—那覇—台北間を試験飛行(10月4日)台湾までの新空路開設をめざす日本航空輸送会社が、太刀洗から9時間20分で飛行した。写真は試乗を終えた台湾銀行理事夫人(右)らの一行。

昭和6年10月

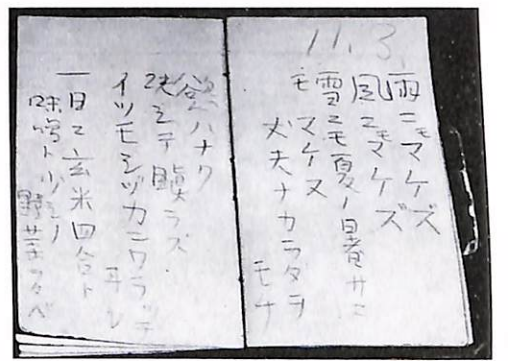
1(木)●日銀総裁・土方久徴、市中銀行各行にドルの「思惑買い」中止を要請。
●歐文社(現・旺文社)創業。学習参考書を出版。
2(金)●都制委員会、合併による大東京建設を決定。
3(土)●藤原義江、パリ国立オペラ・コミック座出演。
4(日)●日本航空輸送、福岡—台湾間の試験飛行実施。
5(月)●前日青森県を出発した米機「ミス・ビードル号」が初の太平洋無着陸横断飛行に成功。
6(火)●二〇年で三万人治療の東京の偽医者取り調べ。
7(水)●米、「満州事変」調査委員が現地調査中と発表。
8(木)●関東軍、張学良の新拠点・錦州を爆撃。
9(金)●陸軍士官学校の中国留学生七一人、「満州事変」に抗議し軍刀などを返上。即日退校処分。
10(土)●東京で息子の満州出征阻止のため父親が縊死。
11(日)●独でナチスなどがハルツブルク戦線を結成。
●東京市、公設食堂で大幅値下げ。うどん五銭。
12(月)●朝日新聞社重役会、軍部の徹底支持・批判の自粛方針を決める。
13(火)●石川島自動車、スミダTB型軽戦車を完成。
14(水)●横浜正金銀行、貿易以外のドル為替売却中止。
15(木)●大阪・松島遊郭の娼妓一三人がハンスト突入。
16(金)●府県議会選挙の結果、野党・民政党が大勝。
17(土)●橋本欣五郎らの荒木貞夫首班の軍部内閣樹立を企図するクーデター計画発覚(一〇月事件)。
18(日)●陸軍首脳、関東軍説得のため白川大将を派遣。
19(月)●静岡県で陸軍初の実弾投下爆撃演習を開始。
20(火)●上海抗日会、日本商品扱う中国商店懲罰決議。
21(水)●東京六大学野球で立教大が初優勝。
22(木)●上海で蔣介石・汪兆銘ら和平会談始まる。
23(金)●文部省、人員削減で教授一一七人整理案内示。
24(土)●アル・カポネに脱税などで懲役一一年の判決。
●国際連盟理事会、一一月一六日を期限とする日本軍の満州撤退勧告案を一三対一で可決。
25(日)●大阪・中之島に大阪朝日ビル完成。
26(月)●政府、「満州事変」に関する第二次声明(日中の侵略行動否認など撤兵の前提条件)を発表。
27(火)●南部忠平、走幅跳びで七㍍九八の世界新記録。織田幹雄も三段跳びで一五㍍五八の世界新。
28(水)●東京放送劇団結成。友田恭助・東山千栄子ら。
29(木)●ゲーリッグら大リーグ選抜チーム、来日。
●ソ連、「満州事変」には中立・不干渉と声明。
30(金)●南京在留の日本人全員の引揚げ決定。
31(土)●北海道・東北の冷害で作物七割減の大凶作、飢饉の窮民は三五万人、と新聞に。

◀**清朝廃帝・溥儀、天津を脱出(11月10日)**「満州国」樹立を企図する奉天特務機関長・土肥原大佐の工作で、「天津暴動」の最中、「淡路丸」に乗船、大連へ向かい、13日営口へ上陸した。写真は隠密裡に満州へ向かう船上の溥儀(前列中央)。

▼**芸術の大衆化めざしコップ結成(11月27日)**文芸評論家・蔵原惟人の提唱で、作家同盟など12団体が参加した。写真は新築地劇団員らによるコップ(日本プロレタリア文化連盟)結成の記念撮影。

◀**金本位制離脱で株取引所沸騰(12月14日)**前日発表された金輸出再禁止の影響で、この日は前場から買い注文が殺到、狂騰状態になったため、各取引所は立ち会いを停止した。写真は休会した大阪株取引所。

▶**毛沢東、主席に就任(11月27日)**中国共産党は「解放区」江西省瑞金で、代表大会を開催し臨時政府を樹立。毛沢東(38、右から2人目)が主席、項英(33、3人目)が副主席、朱徳(45、5人目)が軍事委員会主席に就任した。

▶**賢治が病床で「雨ニモマケズ」(11月3日)**9月の上京直後高熱で倒れ、岩手県花巻に帰省、自宅で療養中の宮沢賢治(35)が、手帳に記した。写真はその冒頭部分。

◀**米大リーグチーム来日(11月7日)**10月に横浜に到着、この日開会式。ヤンキースの強打者ゲーリッグらは、各地で日本選抜軍などと17試合を行い、圧倒的な強さで全勝した。

朝日新聞社

昭和6年11月

1(日)●幣原外相、関東軍の溥儀擁立工作中止を訓令。●滋賀県、ビタミンB消失の混砂米販売を禁止。
2(月)●九州帝大、別府に温泉治療学研究所を設置。
3(火)●療養中の宮沢賢治、「雨ニモマケズ」を記す。
4(水)●関東軍、嫩江で馬占山軍と衝突、戦死者続出。
5(木)●民政党、三井のドル買い糾弾の声明発表。●日本放送協会、文藝春秋社に松内則三アナの早慶戦実況速記掲載は著作権侵害と抗議。
6(金)●愛国学生連盟七千余人が第一回愛国祭を挙行。
7(土)●大阪城天守閣が再建され竣工式挙行。●食糧品研究所、日本初の有給生理休暇認める。
8(日)●天津で暴動事件起き日中両軍が衝突。
9(月)●予約忘れの原修次郎鉄相が満員で乗車できないため、特急「富士」に寝台車一両を増結。
10(火)●陸軍兵の名称改正。一等卒が一等兵など(7日勅令で廃兵を傷痍軍人と改称)。●溥儀、土肥原賢二大佐の謀略で天津を脱出。
11(水)●大阪中央卸売市場が開場。●日本基督教連盟、「満州事変」は遺憾と声明。
12(木)●大阪地裁、ビル建築の地下工事による隣接地被害に初めて法的救済を認め賠償命令。
13(金)●日米野球の切符購入と五〇円詐取の男を検挙。
14(土)●川島芳子、背広姿の男装で上海から満州へ。
15(日)●第一回児童栄養週間が全国一斉に始まる。●鉄道省、北陸線で試作ガソリン車の運行開始。
16(月)●閣議、チチハル占領案否決。陸軍は占領命令。
17(火)●広島放送局、第八師団(弘前)満州派遣部隊の宇品出港を初めて実況中継。
18(水)●関東軍、馬占山軍を攻撃(19日チチハル占領)。
19(木)●二六年ぶり米から帰国の国吉康雄が個展開催。●独のアドルフ・ウィンダウス、ビタミンD発見。
20(金)●東京のダンス教室八ヵ所に、風紀が乱れているとの理由で閉鎖命令、と新聞に。
21(土)●小結武蔵山、ボクシングへの転身を断念。
22(日)●東京・神田の立花亭から寄席の初中継。
23(月)●借金地獄の坂東三津五郎、劇界の公職辞任。
24(火)●経営紛争の東京王子高女で全生徒が退学。
25(水)●平凡社、『大百科事典』(全二四巻)刊行開始。
26(木)●警視庁、「大廉売」など誇大広告取締りを通牒。
27(金)●毛沢東ら、中華ソビエト共和国臨時政府樹立。●一九四〇年五輪東京開催のための懇談会発足。
28(土)●日赤、「満州事変」の傷病者救済で看護婦派遣。
29(日)●「在満同胞慰安の夕」、満州へ向け放送開始。
30(月)●女性に弁護士資格認める法改正案の上程決定。

▲**北海道・東北飢饉(12月)**冷害のため、収穫量は平均6~7割減の大凶作。馬の飼料の燕麦まで食べる惨状(写真)で、欠食児童・人身売買が横行する苛酷な生活を強いられた。

毎日新聞社

▶**ジュネーブ軍縮会議に出発(12月15日)**翌年2月開催の国際連盟軍縮会議出席のため、陸軍・松井石根、外務省・佐藤尚武、海軍・永野修身の3全権が出発した。写真は東京駅で大歓送を受ける一行。

▼**三菱の岩崎邸に抗議(12月25日)**金本位制離脱前のドル買いに反財閥感情が高まり、社会民衆党員ら150人が抗議に押しかけたが、家宅侵入罪で逮捕された。

▲**エンタツ・アチャコ、満州慰問から帰る(12月24日)**吉本興業は漫才の横山エンタツ・花菱アチャコ(中央)ら「笑いの慰問団」を満州に派遣。奉天(瀋陽)、遼陽などをまわって大歓迎され、この日帰阪した。

▼**犬養内閣成立(12月13日)**組閣直後に、金本位制を停止。軍部独走阻止のため、陸相に皇道派の荒木貞夫、書記官長に大陸積極論者の森恪を登用したが成功しなかった。

毎日新聞社

昭和6年12月

1(火)●エンタツ・アチャコら吉本興業の満州軍慰問団が大阪を出発(4日奉天到着)。
2(水)●流行している中学入試用模擬試験にはインチキなものが多いと東京府が各校に注意を喚起。
3(木)●内地師団の朝鮮・満州への移駐計画が確定。
4(金)●山形県から銘酒屋に売られた二〇歳と一七歳の姉妹が逃げ出し、西神田署に保護される。
5(土)●綿糸紡績業など一九産業を重要産業に初指定。
6(日)●東京美術学校で平櫛田中の岡倉天心像除幕式。
7(月)●青森から知事ら県の全当局者が上京、飢饉救済の二〇〇〇万円低利融資求める運動を開始。
8(火)●秋葉原駅に初の客用エレベーター設置と決定。
9(水)●スペイン、第二共和制憲法を採択。
10(木)●東京市が欠食児童調査。総数二三六五人。
11(金)●英議会、ウエストミンスター憲章を可決。英本国と自治領が平等の英連邦を結成。
12(土)●大阪で新婚の井上千代子、満州出征の夫のため自殺(新聞が「軍国の妻」と熱狂報道)。
13(日)●犬養毅政友会内閣成立。蔵相に高橋是清。●新内閣、金輸出再禁止(金本位制離脱)を決定。
14(月)●金輸出再禁止で株式が暴騰し立ち会い停止に。
15(火)●第一回広告賞発表。最優秀賞はライオン歯磨。
16(水)●浅草オペラ館、開場。榎本健一らの劇団ピエル・ブリリアントが旗揚げ公演。●独社民党、ナチスに対抗し「鉄の戦線」結成。
17(木)●姫路市の北中皮革争議団演説会で被差別部落民労働者と警官隊が衝突(18日三〇〇人検挙)。
18(金)●東京株取引所再開。株暴騰し売買高新記録。
19(土)●京成電鉄の日暮里―青砥間開通。成田まで全通し料金は九一銭で省線より一一銭安い。
20(日)●吉田晴風、ニューヨークで初の尺八演奏会。
21(月)●農林省、凶作地救済米払い下げ要綱を発表。
22(火)●ソ連人民委員会議長モロトフ、「日本の満州進出を重視し挑発に備えよ」と演説。
23(水)●ラジオ座談会「来年の景気は?」で金輸出再禁止反対が続出(26日閣議、取締りを厳命)。
24(木)●陸軍省、中島九一式戦闘機の制式採用を発表。
25(金)●最新設備を備えた東京中央郵便局、完成。
26(土)●京浜電鉄と湘南電鉄の相互乗り入れが完成。
27(日)●閣議、満州へ朝鮮軍の一時的増派を決定。
28(月)●関東軍、錦州進撃を開始(7年1月占領)。
29(火)●輸出入ともこの年大幅減少と大蔵省貿易決算。
30(水)●戦旗社が解散。「戦旗」「少年戦旗」廃刊。
31(木)●東京・新宿にムーラン・ルージュが開場。

巷の歌・流行語・CM

俄楽多市

▲2月21日、成城学園高等女学校の女子ホッケーチームが、横浜外人女子チームと対戦、3対0で勝った。 朝日新聞社

流行語 日本初のハンストを決行

「ハンスト」。「ハンガーストライキ」の略。不況の最中各地で首切り、賃下げが横行し、それに反対するストもさかんになった。しかし経営者もスト慣れして、少々のことでは驚かない。そこで四月、日本染絨の争議団二〇〇人は解雇撤回を要求して、全員がハンストを決行した。これが日本初のハンストで、この戦術が社会的な話題になったところから、争議の手段として定着した。

「二人で感激しましょうよ」。女性用語で、男性をお茶や食事に誘う時の言葉。男性から女性に呼びかけることもあり、その時は「最後までも」の意を含んでいた。もし女性が黙っていればOKのしるし、お茶や食事はいいけど、その後はダメという場合、「興奮しちゃいやよ」とクギをさした。

「ヒコペー」。「ヒコページ」の略で顔のこと。漢字の「顔」は〝彦〟と〝頁〟からなっているから。同じように頭のことを「マメペー」と言った。いずれも女性の美醜、頭のよしあしを言う時に用いられた。大学教授から広がったという。

CM100年 ポスター「サッポロビール」(サッポロビール)

▲レビューの踊り子をモデルにしたと言われる広告。高木葆翠画。

広告 コカ・コーラ社の依頼でサンタクロースが誕生

真っ白な頭髪と頭に負けない真っ白な髭、着ているものは赤いコートに赤いズボンと言えば、世界中誰でも知っているサンタクロースの姿。このスタイルのサンタが登場したのが一九三一年だった。アメリカのイラストレーター、ハッドン・サンドブロムがコカ・コーラ社から依頼されて作ったもので、モデルは同社を定年退職した元営業マン。クリスマスの一週間前、このサンタを描いた看板が道路脇やビルの屋上に一斉に設置されて、アメリカ中で人気となった。

ちなみにサンタのイラストで赤と白のコントラストを強調したのは、それがコカ・コーラ社の基本的なカラー・トーンだったからだという。

（「報知新聞」平成四年九月二二日）

化粧品 匂いのリーグ戦の覇者は？「六大学香水」売り出す

この夏、香水の流行は目をみはるものがあるが、銀座・松屋ではマネキン嬢を使って「六大学香水」を華々しく売り出している。

「各大学の特徴を匂いで表現した」そうで、たとえば明大は敏捷、東京帝大は上品、早大は剛健、立大は正雅とのこと。敏捷と剛健の匂いをどうかぎ分けるかは疑問だが、売れ行きは上々。

（「東京朝日新聞」六月八日）

▲前川千帆作「あわてものの熊さん」の連載が、「読売サンデー漫画」二月一日号から始まった。 日本漫画資料館提供

健康 ペット相手にキスすると奇病に感染するおそれが

アメリカで、著名な医学者のダマラウ博士を中心に〝キス反対運動〟が起こっている。同博士によると男女が濃厚なキスを交わすと、互いに二〇万個の細菌を交換することになり、きわめて不潔。ところが最近のペットブームで犬、猫、ウサギ、オウムなどとキスすることが流行し、ウサギのツラレミア病、オウムのシタコシス病などの感染のおそれが出ている。このままではアメリカは奇病の巣窟になると、博士は警告している。

（「実話雑誌」七月号）

はやり歌

酒は泪か溜息か

作詞 高橋掬太郎
作曲 古賀　政男

酒は泪か　溜息か
心のうさの　捨てどころ

遠いえにしの　かの人に
夜毎の夢の　せつなさよ

酒は泪か　溜息か
悲しい恋の　捨てどころ

忘れたはずの　かの人に
残る心を　なんとしょう

▶作曲者・古賀政男と歌手・藤山一郎のコンビが、その人気を不動のものとした歌謡曲の古典的名作。

サムライ・ニッポン

作詞 西条八十
作曲 松平信博

人を斬るのが　侍ならば
恋の未練が　なぜ斬れぬ
伸びた月代　さびしく撫でて
新納鶴千代　にが笑い

昨日勤王　明日は佐幕
その日　その日の　出来心
どうせおいらは　裏切者よ
野暮な大小　落し差し

流れ流れて　大利根越えて
水戸は二の丸　三の丸
おれも生きたや　人間らしく
梅の花咲く　春じゃもの

命とろうか　女をとろか
死ぬも生きるも　五分と五分
泣いて笑って　鯉口切れば
江戸の桜田　雪が降る

▶西条八十の詞を、徳山璉（たまき）が歌って大ヒット。日活映画「侍ニッポン」の主題歌でもあった。 福田俊二提供

三面記事 ノンストップで踊り続けて

〔シカゴ発〕当地のアミューズメント・パークには、一〇〇〇ドルの賞金をめざして、昨年八月三〇日から年を越して、三〇〇〇時間以上も踊り続けている男女がいる。このノンストップ・ダンス、最初は一六〇組でスタートしたが、今残っているのは一〇組。一時間に一〇分の睡眠を許されているが、踊りながら眠っているものが半数いる。しかも踊るといっても、手足がふるえるくらいに無意識に体を動かすだけ。優勝に一番近いと予想されているのは一九歳の電話交換手、マリオン・ジョルダン嬢で、パートナーは次々にダウンしたが、その代わりを用意していたこともあって、目下、三人目のパートナーを相手に、彼に引きずられるように踊り続けている。

なお見物人は五〇セントの入場料を払い、審判をかねて二四時間はかならず見るという決まりだが、こちらは押すな押すなの人気である。

（「山陽新聞」一月一八日）

葬式 お棺の前でご開帳 徹夜で〝カブ賭博〟

〔神戸発〕死んだ友達の霊を慰めようと、お棺の前で〝カブ賭博〟を開帳していた八人が、兵庫県宝塚署に捕まった。死んだのは市内の鮮魚商・村田某。そのお通夜に懇意にしていた八人が集まった。「仏は生前、賭博が好きだったのに一年近い長患いで好きな賭博もできなかったろう。ここは仏の霊を賭博で慰めよう」と衆議一決、翌日の出棺までの二〇時間、徹夜で開帳していたもの。ただしお棺の前で「カブだ、オイチョだ」と声を張り上げていたため、ほかの客はおまいりできず、警察に通報されてしまった。

（「犯罪公論」一〇月号）

豊島区立郷土資料館蔵

▲この年、労働者や商人、職人が鳥打ち帽をさかんにかぶった。格子柄が人気だった。

大漁 元旦に鯨三〇〇頭捕獲 町民総動員で冬の海へ

〔銚子発〕茨城県波崎町東部小学校では元日の朝、四年生以上の児童六〇〇人が早起き会を催し、午前四時半、柴田校長以下職員に引率されて、学校から手子眉神社に参拝した。小休止の後、初日の出を拝もうと、同町の東端に位置する洲の崎へ出たところ、すぐ目の前に海を圧するようなゴンドウ鯨（体長七〜八メートル）の大群を発見、校長はただちに全児童にそれぞれの家へ急報させ、町民総動員の捕獲態勢を整えた。町民はそれぞれの役割が決まるや、元日の寒さをものともせず海中に躍りこみ、午前一一時までに約三〇〇頭を捕獲した。

老人の話によると、これほどの大漁は記憶になく、五〇年ぶりではないかと言う。洲の崎と対岸の銚子町の間の利根川は、川の半分が鯨で埋まり、軍艦が碇泊しているかのような偉観を呈していた。

（「九州日報」一月四日）

朝日新聞社

▲10月25日、大阪中之島に完成した朝日ビルの完工奉告祭が挙行された。

この年の初もの 交通安全デー制定 神奈川からスタート

●はるさめ　満州（中国東北部）から職人を呼んで、東京で国内生産が始まる。
●トランク・ルーム　三菱倉庫が東京・日本橋にオープン。最初はお座敷に出る芸者の着替えの場として使われた。
●有給生理休暇　東京・千住の食糧品研究所で開始。
●墜落屋　アメリカの曲芸飛行士が、中古飛行機で物置き小屋や林の中に突っこむショー。一回出演するごとに二〇〇〇ドル稼いだが、骨折も一二回、一九カ所。

▶三原山の観光用に、ゴビ砂漠産のラクダが三頭登場。料金は一人一円五〇銭だった。

世界の動き

高さ三八一メートル、一〇二階建て〝強いアメリカ〟を象徴する「摩天楼」エンパイア・ステート・ビル完成！

▲正面入り口から続く1階のロビー。雄大な建物にふさわしく3階分の高さの空間が吹き抜けになっていて、天井近くにはガラスで囲まれた通路が作られた。 CORBIS-BETTMANN PPS

一九三一年五月一日、ニューヨークに「摩天楼」エンパイア・ステート・ビルディングがオープンした。アメリカの再生力、未来への希望を象徴したこのビルは、一九七〇年代なかば、同じくニューヨークのワールド・トレードセンターが完成するまで、約四〇年にわたり、人工物としての〝世界最高峰〟の座を守り続けた。

ARCHIVE PHOTOS／アメリカン・フォト・ライブラリー

▲頂上部分を残して完成間近いエンパイア・ステート・ビルディング(1931年)。

着工から完成までわずか一年四五日の超スピード

五月一日のビル・オープン当日、超高層巨大ビルの落成式が盛大にとり行われた。八六階で開かれた昼食パーティには、ニューヨーク州知事のフランクリン・ルーズベルト（後の大統領）やジミー・ウォーカー・ニューヨーク市長ら三五〇人の招待者が出席。午前一一時三〇分、首都ワシントンのホワイトハウスでフーバー大統領が電源にスイッチを入れると、ビルの照明が一斉に点灯した。

挨拶に立ったエンパイア・ステート株式会社社長アルフレッド・スミス（前ニューヨーク州知事）が、建設に大きな役割をはたした技術者たちの名前を記念碑に刻むことを提案すると、会場からは一斉に拍手が沸き起こった。

ルーズベルトは「私も一部屋借りたい。落ち着く場所ができるから」と述べ、ウォーカーは「毎年このビルから三五万ドルの固定資産税を徴収できてうれしい。それだけの価値は十分ある」とユーモアたっぷりのスピーチが続いた。

八六階からの眺めは雄大そのもの。ある参加者はセントラルパークを指さしながら「ここから見るとフットボール競技場ほどの大きさもない」と驚嘆の声を上げるほどで、人や車はまるで小さな虫のようであった。

新聞は、「最新技術の結晶だ」と大々的に書きたて、この偉業を、吹き荒れていた〝大恐慌〟に打ち勝つ象徴的出来事と絶賛。その日、約二〇〇〇人の市民が午後二時から六時まで、エレベーターで地上と展望台を往復しながら感激と興奮に酔いしれた。

マンハッタンの五番街西三三丁目と三四丁目の間に建てられたこの「摩天楼」は、高さが三八一メートルで一〇二階建て、事務室の面積は一八万平方メートル。正面はほとんどが、インディアナ石灰岩と花崗岩で外装され、光沢のあるステンレス・スチール合金を使った縦縞は、流れるように天空に伸び、その威容を強調している。

ビル入り口の天蓋はごく控え目だがロビーは広々とし、ベルギー、フランス、ドイツから輸入された素晴らしい大理石が貼りつめられ、一階とホールには、銀行や新聞雑誌売り場、衣料品店、レストランなどが並び、八六階と一〇二階には二つの展望台が設けられた。

ビル工事はすさまじいスピードで進められた。前年の一九三〇年三月一七日の着工後、三週間後の四月七日までに最初の鋼鉄の大梁が設置され、その後、一週間に四～五階を積み上げ、同年一一月なかばには建物全体の骨組ができあがった。その後、石材工事、窓枠の取り付け、エレベーター、郵便物用シュートの取り付けなどが計画通りに進められ、工事開始後わずか一年四五日間で完成にこぎつけたのである。

この超スピード建設が実現した裏にはさまざまな要因があった。そのひとつが鉄骨建築の技術である。この方法ではセメントなどが固まるのを待つ必要もなく、工場で加工した外壁を鉄骨に架け、貼りつけていく。そして超高層での給排水設備、人間を持ち上げるエレベーター技術などが、大きくものをいった。中でも綿密に計画された施工明細書が威力を発揮し、必要な時に即座に使えるように現場近くにおかれた鋼の大梁は、明細書に従って次々と所定の位置に持ち上げられた。

使用された建築資材は、鋼材六万トン、煉瓦一〇〇〇万個、電線七六二キロメートル、石材五六〇立方メートル。総建設費は見積段階で五〇〇〇万ドルだったものが、時間と人件費の削減で実際には四〇九八万九九〇〇ドルにとどまったのである。

▶六七・七メートルの尖塔が載るビル最頂部。後にテレビ送信装置に改造。

外から見たNIPPON

夏衍の戯曲「ファッショ細菌」と上海自然科学研究所

佐伯　修

日本で細菌学を学ぶ中国人留学生、兪実夫は、最近、晴れて医学博士号を得たばかり。そんな兪が、日本人の妻、静子と、三つになる娘の寿美子(寿珍)と暮らす東京郊外の借家に、同郷の友人、趙安濤が訪ねてきたのは、この年九月一五日のことである。

満州（中国東北部）をめぐって、日中両国間に緊張が増している折から、政治意識の旺盛な趙は、上海に日本人が中心となって設立されたばかりの「上海自然科学研究所」に赴任すると言う兪に向かって、次のように忠告する。

「日本人のやっている研究所の目的は、かならずしも純粋の科学のためとは限らないよな。だから特に君は気をつけなきゃ」

「今のこんな状況の中で日本人が経営する研究所で働くということは、中国人の目から見たら、よろしくないという誹りをまぬがれないだろう」

これに対し、政治よりも「科学に国境なんかない」という理想を信奉する兪は、次のように答え、上海へ赴任していった。

「それなら、心配しないでくれ。僕は政治のことはよくわからないけれど、君と一緒で、人間としてなすべき道は心得ているよ」

だが、三日後、「満州事変」が勃発、兪一家も、日中の戦乱の波に呑まれてゆく。

中国の劇作家・記録文学者、夏衍（一九〇〇〜九五）の戯曲「ファッショ細菌」（横井成行訳）第一幕の一節である。上海自然科学研究所は、日中関係がまだ破局的に悪化していなかった時代に、義和団事件の賠償金を基に、北京人文科学研究所とともに企画された、日中合同の委員会によって運営される国際研究機関だった。しかし、中国国民党による中国統一戦争である北伐に対する日本の干渉（山東出兵＝一九二七、二八年）と武力衝突（済南事件＝一九二八年）に、中国側委員が抗議して脱退、研究所は日本側のみによりスタートする。

そんな研究所への中国側からの風あたりは、趙の懸念にも見られるとおりで、実際、この研究所には、石井四郎軍医らの細菌戦研究との人脈的つながりなど、謎も多い。

一方で、特に初期のこの研究所には、当時の中国側研究機関にない自由さもあり、魯迅や郁達夫との接点も見られるほか、作者・夏衍の親友、陶晶孫も研究所員だった。ただし、陶がそのまま兪のモデルでもない。

なお、この戯曲は、自身も九州帝大出身だった夏が、周恩来の腹心だった一九四二年に書いたもので、題名は、ファシズムはチフスよりも怖い「心に宿る細菌」との意。

陶棣土／東方書店提供

▲「芸術劇社」の同志で、医学者の陶晶孫(左)と。

「摩天楼」ラッシュの背後にひそむもの

「摩天楼」と呼ばれる高層商業建築が初めて登場したのは、一九世紀後半のシカゴである。一九一三年にはニューヨークのマンハッタンに六〇階建て二四〇メートルというウールワース・ビルが完成、第一次大戦後の空前の戦後景気の中で摩天楼ラッシュが始まった。

この高さ競争について、東京大学の鈴木博之教授は次のように語っている。

「その裏にはアメリカ人特有の考え方がひそんでいるように思います。中世から続くヨーロッパの都市と違い、移民国アメリカでは無から街を作る。しかも高密度で圧縮させ、都市を垂直に表現して、その力を見せつけるという発想があったのです。また大恐慌による不景気も一役買っています。手間賃や資材も安く調達できたからです」

こうして完成したエンパイア・ステート・ビルディングも当初は不況のあおりを受け、二五パーセントしかテナントが見つからなかった。ほぼ完全にふさがったのは一九四五年頃になってである。

エンパイア・ステート・ビルディングは、まさに強いアメリカのシンボルであった。ビルの最上部の尖塔は、ヨーロッパからの訪問者が乗った飛行船の係留ポールとして考案され、一九四五年七月二八日にアメリカ空軍機がビルに激突した際も、ほんのかすり傷程度の被害しか受けなかった。巨大なゴリラが美女を腕に抱いてこのビルの頂きによじ登り、戦闘機の編隊と戦った映画「キングコング」のラスト・シーンも、その伝説的イメージを強めている。

ちなみに、現在、世界で一番高い建物は、クアラルンプール（マレーシア）のペトロナス・タワーで、四五二メートル。日本一は横浜ランドマークタワーの二九六メートルである。

▶ルイス・ハインが撮影した建設現場。右下にはクライスラー・ビルが。

ルイス・ハイン／NATIONAL ARCHIVES／アメリカン・フォト・ライブラリー

▲8月26日　浜口雄幸(61)
政治家。昭和4年民政党内閣を組閣し、首相に就任。"ライオン宰相"と呼ばれた。翌年狙撃され、約10ヵ月後に死亡。

毎日新聞社

▲6月26日　山川健次郎(76)
物理学者。東大総長、九大初代総長、京大総長などを歴任。東大教授時代に『物理学術語和英仏独対訳字書』作成。

毎日新聞社

▲3月29日　鈴木三郎助(63)
鈴木商店(現·味の素)創設者。明治42年、池田菊苗発明のグルタミン酸ナトリウムを「味の素」として発売。

▲1月23日　アンナ・パブロワ(49)
ロシアのバレリーナ。1909年ロシア·バレエ団のパリ公演に参加し世界的な名声を得た。1913年英国移住。

◀10月18日　トーマス・エジソン(84)
アメリカの発明王。蓄音器、白熱電球、活動写真などを発明。生涯に取得した特許は一三〇〇種以上にのぼった。

▲6月13日　北里柴三郎(78)
世界的な細菌学者。明治23年ジフテリア血清療法を開発し、27年ペスト菌を発見。大正4年に北里研究所設立。

▲1月27日　2代西ノ海嘉治郎(50)
力士。大正5年横綱昇進。同年、浦ノ浜をやぐら投げで倒した一番は、好角家の語り草になる。大正7年引退。

▶11月11日　渋沢栄一(91)
実業家で、近代産業成立期の最大の功労者。明治元年に商法会社創設、以後五百余の会社を設立。

▲6月18日　矢野龍渓(80)
政治家、小説家。明治14年、大隈重信と立憲改進党の結成に尽力。小説『経国美談』はベストセラーになった。

◀2月13日　小出楢重(43)
画家。関西画壇のリーダー。「支那寝台の裸女」など裸婦像の連作を手がけ、ガラス絵、挿絵画家としても活躍。

▲12月3日　花井卓蔵(63)
弁護士、政治家。明治31年政界入り、刑法改革に尽力。弁護士として松島遊郭事件、大逆事件など有名事件を担当。

▲8月2日　人見絹枝(24)
陸上選手。大正15年万国女子陸上競技大会総合優勝。昭和3年アムステルダム五輪で日本女性として初の銀メダル。

ミニ事典

1931年のキーワード

生命線

一月二二日から開かれた衆院本会議で野党・政友会の松岡洋右（後の外相）が、幣原外交を「対米英追随の弱腰」と批判した中で、「満蒙（満州＝中国東北部、蒙古＝内モンゴル）は帝国の生命線である」と使った。満州にある日本の権益を守ることはわが国の生命を守ることに等しいという意味。以後、一般に流行し「お肌の生命線」「わが家の生命線」「身体の生命線」などと言われた。

重要産業統制法

紡績、鉄鋼、セメントなど経済の基盤を支える一九（後に二六）の重要産業について、政府が統制を行うことを定めた法律。四月一日公布、八月一一日施行。産業強化を目的にしたが、一方でカルテル結成を強力に推進したため、国家と独占資本の結びつきを固めた。

愛郷塾

農本主義者・橘孝三郎を塾長として四月一五日、水戸市近郊にできた私塾。正式には自営的農村勤労学校愛郷塾。トルストイやマルクスの影響下に農本主義に基づく農村の自力更生運動をめざした橘が、昭和四年に設立した愛郷会の幹部養成機関だった。しかし、深まる農村疲弊と既成政党の腐敗、血盟団・井上日召の影響などから超国家主義的教育機関に傾き、翌七年の「五・一五事件」に連座、橘は昭和一五年まで入獄した。

朝日新聞社

▲愛郷塾の塾舎。橘塾長ら教師3人が塾生と起居をともにし、学習と農業を実践した。

全国産業団体連合会

労働運動対策のために結成された資本家の統一団体。略称、全産連。全国一七五の産業団体が四月二一日に創立協議会を開催、五月六日に発足した。会長・郷誠之助。政府は労務に関する法規の制定・改正にあたっては全産連に内示、利害調整をはかることとした。後に大日本産業報国会となり、戦後の日本経営者団体連盟（日経連）の母体となった。

航空研究所

朝日新聞社

▲5月11日の開所式には、天皇が行幸。2時間余にわたって、最新の実験設備を見学した。

正式には東京帝国大学航空研究所。今日の文部省宇宙科学研究所の前身である。大正七年に東京・深川に設立されたが、関東大震災で焼け、同大駒場校舎に仮住まいしていた。五月一一日、航空研究に寄せる国の大きな期待を受けて、同所近くに最新設備で再出発。所長・斯波忠三郎。昭和一三年には、試作機が周回飛行距離などの世界記録を樹立した。

フーバー・モラトリアム

アメリカのフーバー大統領が、第一次世界大戦中の連合国の米国に対する債務と、ドイツの連合国側に対する戦時賠償の支払いを、一年間凍結するとした提案。六月二〇日に声明。過大な戦時賠償に苦しむドイツと、不況にあえぐ連合国諸国を支援し、世界的大不況を打開しようとした。「賢明かつ勇気ある決断」と期待されたが、恐慌は克服できなかった。

全国労農大衆党

社会民主主義政党のうち、七月五日に全国大衆党、労農党、社会民衆党合同賛成派の三党が合同して結成された。書記長・麻生久。合法無産政党では社会民衆党と勢力を二分し、九月の「満州事変」に対して中国出兵反対・帝国主義戦争反対の闘争を、他の勢力が後退する中で唯一組織した。しかし七年、大矢省三らが国家社会主義を唱えて離党、分裂した。

関東軍

満州に駐留していた日本の陸軍部隊。最初は関東都督府の軍隊として日露戦争で得た南満州鉄道と、遼東半島の租借地（関東州）を守備。大正八年に関東都督府が関東庁に改編された際、天皇直属の軍隊として独立した。昭和に入って中国革命が進展すると、それに反発、独断で陰謀をたくらみ、この年、「満州事変」を起こし、日中戦争へと走った。太平洋戦争開戦時には七〇万の大軍を擁したが、昭和二〇年に壊滅した。

ドル買い

英国の金本位制が停止された九月二一日以降に起こった国際資本や、財閥などによるドルの思惑買い。世界大恐慌の影響は深刻で各国が英国に追随、日本も同調すると思われた。そうなると円の暴落は必至で、財閥は円高のうちにドルを買い、円が暴落してから円を買い戻すことで差益を得ようとした。実際に財閥のドル買いによる利益は巨額で、凶作と不況にあえぐ国民の怒りを呼び、翌七年三月の血盟団事件を誘発させた。

毎日新聞社

▲11月2日、三井銀行本店前を社会民衆党が「ドル買い」抗議のデモ行進をした。

一〇月事件

陸軍参謀本部の橋本欣五郎中佐ら桜会急進派と北一輝、西田税ら民間右翼が企図したクーデター計画。一〇月二一日前後を期して決起、首相・閣僚を殺害し、警視庁・陸軍省などを包囲、荒木貞夫中将を首相とする政権を樹立しようとした。しかし、一七日に発覚、橋本ら一四人が憲兵隊に拘束された。橋本はこの年三月にもクーデターを企図（三月事件）、この時期、軍部急進派はしきりに軍事政権の樹立をはかっていた。

軍国の妻

「満州事変」以降の戦意高揚の中で政府・マスコミ・大衆が一体となって作り上げた「軍国美談」のひとつ。一二月一二日、大阪で夫の出征前日に「何卒後の事を何一つ御心配ございますな」と遺書を残し自刃した二一歳の妻がいた。「まことに今事変随一の出征美談」など称賛に満ちた弔辞や、エピソードが新聞紙上を埋め、放送・映画が繰り返し取り上げた。これをきっかけに翌七年には、大阪国防婦人会が結成された。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1931

CONTENTS

●特集
「カジノ・フォーリー」「ムーラン・ルージュ」学生・インテリ層も軽演劇に熱中！……2
一五年戦争につながる"謀略の構図"軍部の自作自演で「満州事変」勃発！……6
子どもたち自身が育てた二大ヒーロー「のらくろ」「黄金バット」登場……27
"強いアメリカ"を象徴する「摩天楼」エンパイア・ステート・ビル完成！……38
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日……10・30
女たちの肖像
田中絹代、初のトーキーに主演　稲葉真弓……9
勝者・敗者
南部忠平、走り幅飛び世界新！　阿部珠樹……9
証言・あの日この日　山崎行太郎……15・31
「現場」を歩く
明石原人と一考古学者の夢　山本徹美……17
20世紀博物館
消防博物館（東京）　桑原茂夫……26
外から見たNIPPON
劇作家・夏衍の「ファッショ細菌」　佐伯修……40
●モノ語り'31
"モダンライフ"を支えた「新ナショナル受信機」「さくらカメラ」……19
●人物クローズアップ
古賀政男、「酒は涙か溜息か」大ヒット……20
●決定的瞬間
電子顕微鏡、電波望遠鏡第一号誕生……22
●美の出会い
花王"全ページ"広告の快挙！……24
ベストセラー……18　スターと名場面……18
俄楽多市……36　はやり歌……37
往きて還らぬ……41　ミニ事典……42

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕
本文レイアウト／デザインオフィス八起き
編集協力　㈲エービーシープレス　㈱カマル社　㈱コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　㈲マックス　㈲マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　小松邦宏　佐野長成　張替政展
藤森雅弘　結城順一　吉田忠正

●写真協力
明日待子　乙咩雅一　影山光洋　影山智洋　加太こうじ　楠田守
陶棣土　上橋武夫　南部久子　野沢正　ルイス・ハイン　橋本与志夫　服部昌一郎　福田俊二　山中理春
ARCHIVE PHOTOS　朝日新聞社　アメリカン・フォト・ライブラリー　共同通信社　CORBIS・BETTMANN　「時事新報」　誠文堂新光社　デジタルハウス　東方書店　野島出版　bpk　PPS　平凡社　Popperfoto　毎日新聞社　ユニフォト・プレス　WWP
花王　前進座　松坂屋　マツダ映画社　森永製菓
ガス資料館　川喜多記念映画文化財団　古賀政男音楽博物館　台東区立下町風俗資料館　豊島区立郷土資料館　長島愛生園　NATIONAL ARCHIVES　日本カメラ博物館　日本共産党　日本漫画資料館

雑誌 23705-12/30
Ⓛ-2001/1/1
T1123705120565

印刷　凸版印刷株式会社　製本　本村製本株式会社